

令和 2 年度第 3 回第 9 地区教科用図書採択教育委員会協議会議事録

1. 期 日

令和2年8月5日（水曜日）

2. 場 所

北見市端野総合支所 2階 大会議室

3. 出席委員

大空町教育委員会	教 育 長	渡 邊 國 夫
美幌町教育委員会	教 育 長	矢 萩 浩
津別町教育委員会	教 育 長	宮 管 玲
斜里町教育委員会	教 育 長	岡 田 秀 明
清里町教育委員会	教 育 長	岸 本 幸 雄
小清水町教育委員会	教 育 長	加 藤 友 幸
訓子府町教育委員会	教 育 長	林 秀 貴
置戸町教育委員会	教 育 長	平 野 毅
佐呂間町教育委員会	教 育 長	仲 川 倫 則
遠軽町教育委員会	教 育 長	河 原 英 男
湧別町教育委員会	教 育 長	阿 部 勉
滝上町教育委員会	教 育 長	奥 田 直 美
興部町教育委員会	教 育 長	畑 山 研 二
西興部村教育委員会	教 育 長	飯 束 亨
雄武町教育委員会	教 育 長	豊 田 通 敏
北見市教育委員会	教 育 長	志 賀 亮 司
網走市教育委員会	教 育 長	三 島 正 昭
紋別市教育委員会	教 育 長	堀 籠 康 行

4. オホーツク教育局

オホーツク教育局教育支援課義務教育指導班主査 平 山 道 大

5. 事務局員

北見市教育委員会学校教育課次長	皆 川 毅
北見市教育委員会学校教育課学校教育部学校教育部課長	中 嶋 正 弘
北見市教育委員会学校教育課学校教育部指導室主幹	尾 島 康 人
北見市教育委員会学校教育課学校教育部学校教育部係長	横 山 悠 太

6. 会議に付した議題

- (1) 令和3年度から使用する第9地区教科用図書の採択にかかわる情報公開の取り扱いについて
- (2) 令和3年度から使用する第9地区教科用図書の採択について
 - ① 中学校教科用図書及び特別支援学級教科用図書（一般図書）に係る小委員会からの報告並びに採択決定協議

7. 議 事

午前 10 時 00 分 開会

(1) 令和 3 年度から使用する第 9 地区教科用図書の採択にかかわる情報公開の取り扱いについて

皆川事務局長より、議案 3 ページにより説明

- ①令和元年度に実施した情報公開と同様の方法で実施すること
- ②請求期間について、令和 2 年 9 月 1 日から開示すること
- ③取扱要領の施行日を、令和 2 年 8 月 5 日からとすること
- ④協議会終了後、各市町村教育委員会で教科書を採択した後に、採択結果や理由、協議会の議事録及び調査研究資料などをホームページに掲載するなど、積極的に情報公開を行うこと

全員異議無く、説明どおり了承

(2) 令和 3 年度から使用する第 9 地区教科用図書の採択について

①中学校教科用図書及び特別支援学級教科用図書（一般図書）に係る小委員会からの報告並びに採択決定協議

皆川事務局長より、中学校教科用図書及び特別支援学級教科用図書（一般図書）の採択に係る進行手順等に関して、次の 3 点を説明

ア. 採択の区分について

- i 国語の科目については、国語と書写について別々に採択すること
- ii 社会の科目については、地理的分野・歴史的分野・公民的分野・地図について別々に採択すること
- iii 音楽の科目については、一般と器楽合奏について別々に採択すること
- iv 技術・家庭の科目については、技術分野と家庭分野について別々に採択すること
- v 特別支援の科目については、不採択するもののみを決定すること

イ. 採択の順序について

議案と別に配付している会議日程に記載の順で行うこと

ウ. 採択の方法について

- i) 各調査委員会委員長からの調査研究報告を受けた後に委員長への質疑応答を経た後、委員長退席後に全会一致となるまで意見交換・協議をすること
- ii) 協議が調わない場合は、協議会規約第 8 条により「協議会役員で協議し、協議会会長が決定すること」とすること

全員異議無く、説明どおり了承

以降、委員長報告および採択決定協議

【国語（国語・書写）】

◆委員長報告

委員長／国語小委員会委員長、訓子府町立訓子府中学校長の上野弘一です。

国語小委員会は、9名の調査委員で、7月6日に開催された第1回調査委員会以降、「教科書編集趣意書」、道教委発行の「採択参考資料」等を参考にしながら、観点に従って調査研究を行ってきた。

これから、まず国語、続いて書写の順に報告する。

それぞれ「主体的・対話的で深い学びの実現」の観点から、発行者の特徴を報告する。

最初に、東京書籍「新しい国語」について報告する。

本書については、本編・基礎編・資料編の3部構成になっており、巻末の「基礎編 学びを支える言葉の力」で、「論理的・文学的・対話的な言葉の力」を取り立てて学ぶことを通して基礎力を高めるとともに、本編の7単元で構成された「話す・聞く／書く／読む」の3領域で、説明したり話し合ったりの言語活動を通して、国語の知識や技能を身に付けるとともに、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようになっている。また、巻頭に領域別学習内容一覧「1年で学ぶこと」を、巻末に「言葉の力一覧」を掲載し、当該学年での学びや3年間の学びを見通したり、振り返ったりできるとともに、題材末の「てびき」に「言葉の力」を掲載し、学びのポイントが確かめられるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、三省堂「現代の国語」について報告する。

本書については、本編と資料編の2部構成になっており、さまざまな場面で活用できる実践的知識や具体的な学び方を4系統でまとめられた「資料編」を活用しながら、本編の9単元で構成された「話す・聞く／書く／読む」の3領域で、説明したり話し合ったりの言語活動を通して、国語の知識や技能を身に付けるとともに、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようになっている。

また、巻頭に「領域別教材一覧」を掲載し、つけたい力が確かめられるようになっているとともに、「話す・聞く／書く」領域の題材脚欄に学習の流れを示したり、「読む」領域の題材末に「学びの道しるべ」を掲載し学習の見通しをもったり、学びを振り返ったりできるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、教育出版「伝え合う言葉 中学国語」について報告する。

本書については、本編・言葉と文法解説編・言葉の自習室の3部構成になっており、「言葉と文法解説編」は、本編に準じた扱いとなる。本編の補充作品や資料が掲載された「言葉の自習室」を活用しながら、本編の9単元で構成された「話す・聞く／書く／読む」の3領域で、説明したり話し合ったりの言語活動を通して、国語の知識や技能を身に付けるとともに、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようになっている。

また、巻頭に「言葉の地図」を掲載し、1年間で学ぶ内容と身に付けたい

言葉の力を示すとともに、題材に入る前に「学びナビ」で本題材の「学び方」を示して学習へのかまえをもたせたり、題材末の「みちしるべ」で学びを振り返ったりできるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、光村図書「中学校国語」について報告する。

本書については、本編、文法・漢字・振り返り、学習を広げるの3部構成になっており、「文法・漢字・振り返り」の「文法」は本編に準じて扱われ、「振り返り」は3領域の学習を確認する課題が掲載されている。7系統でまとめられた「学習を広げる」を活用しながら、本編の8単元で構成された「話す・聞く／書く／読む」の3領域で、説明したり話し合ったりの言語活動を通して、国語の知識や技能を身に付けるとともに、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようになっている。

また、巻頭の「学習の見通しをもとう」で1年間の学習と身につける力を示すとともに、題材末に「学習（てびき）」で学習過程を明示したり、「学習の窓」でポイントを示したりするなど、見通しをもって学び、学習の積み重ねや深まりが実感できるように工夫されている。

その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

つづいて、書写について報告する。

最初に、東京書籍「新しい書写」について報告する。

本書では、巻頭の「目次」「書写で学ぶこと」「書写の学習の進め方」によって、3年間7単元の学習の見通しがもてるようになっている。

各単元の「書写のかぎ」で学習事項を明確にするとともに、「生活に広げよう」や「文字のいずみ」、巻末の「書写活用ブック」によって、毛筆と硬筆の関連や、実生活への活用を図り、自分が書いた文字を使って説明したり話し合ったりして、我が国の文字文化に親しみ、文字を書く力をつけるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。尚、本書はB5版より横が2.8cm大きいAB版になっている。

次に、三省堂「現代の書写」について報告する。

本書では、巻頭の「目次」「この教科書で学ぶ皆さんへ」によって、3年間7単元の学習の見通しがもてるようになっている。

各題材の冒頭に「目標」を掲載するとともに、「書き方を学ぼう」でポイントが明示されている。また、「学びを広げる」や「書いて身につけよう」、巻末の「資料編『日常の書式』」によって、毛筆と硬筆の関連や、実生活への活用を図り、学習したことを説明したり話し合ったりして、我が国の文字文化に親しみ、文字を書く力をつけるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、教育出版「中学書写」について報告する。

本書では、巻頭の「目次」と「学習の進め方」、図示された「書写を通して学んでいくこと」によって、3年間9単元の学習の見通しがもてるようになっている。

各題材の冒頭に「目標」を掲載するとともに、「考えよう／生かそう／振

り返ろう」の学習の流れが見開き2ページで完結するようになっている。また、自ら書いて確かめる「書き込み欄」や「コラム」、巻末の「書式の教室」によって、毛筆と硬筆の関連や、実生活への活用を図り、書写の学習用語を用いて学習した内容について話し合う活動を通して、我が国の文字文化に親しみ、文字を書く力をつけるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

なお、本書はB5版より横が2.8cm大きいAB版になっている。

次に、光村図書「中学書写」について報告する。

本書では、巻頭の「目次」と「学習の進め方」によって、3年間3単元の学習の見通しがもてるようになっている。各題材の冒頭に「目標」を掲載するとともに、学習の流れをし、「学習を振り返る」でチェックできるようになっている。また、国語学習や学校生活と関連付けられた題材や、「コラム」「やってみよう」、巻末の「日常に役立つ書式」や「中学生のための漢字字典」によって、毛筆と硬筆の関連や、実生活への活用を図り、学習内容について話し合う活動を通して、我が国の文字文化に親しみ、文字を書く力をつけるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

以上で国語小委員会の報告を終わる。

◆質疑応答

会長／国語の調査研究報告について質問等はないか。

Q ／学習指導要領において、各学年の「内容」に位置付けられている「言語活動例」について、各者、どのような工夫・配慮がなされているか。

A ／「聞く・話す」「書く」「読む」各領域における、各者の言語活動の具体例については、報告書に記載のとおりですが、各者とも、さまざまな活動を取り上げ、活動の目標を明示し、活動の流れをわかりやすく示したり、例示したりするとともに、学年の発達段階への配慮も見られる。例えば、「聞く・話す」領域では、各者とも、第1学年でスピーチ、第2学年でグループ・ディスカッション、プレゼンテーション、第3学年でパブリックスピーキングを取り上げている。また、「書く」領域では、東京書籍は、レポート・手紙、随筆・意見文・批評文を取り上げ、これらに加えて、三省堂は、新聞・情報誌・ポスター・名言集、随筆・投稿文を、教育出版は、投書、案内文・PR文・記事、詩・短歌・俳句・作品集を、光村図書は、書評・鑑賞文、詩・短歌・俳句・自分流「枕草子」・修学旅行記を取り上げている。

さらに各者とも、1単元の中で、「読むこと」から「聞くこと・話すこと」「書くこと」への関連を図る排列になっている。

Q ／主体的・対話的で深い学びの実現のためには、生徒の学習意欲を高め

たり言語活動を充実したりすることが求められると思うが、各者、どのような工夫がなされているか。

A / 「聞く・話す」「書く」「読む」各領域における、各者の言語活動の具体例については、報告書に記載のとおりですが、各者とも、さまざまな活動を取り上げ、活動の目標を明示し、活動の流れをわかりやすく示したり、例示したりと見通しをもって主体的に学ぶことができるように工夫されています。また、各者とも、キャラクターを用いて確認、課題提示、話題提供するなど、生徒の学習意欲を高めるように工夫されています。東京書籍が、7人のキャラクターを設定し、漫画風の「学びの扉」を掲載している特色がある。

Q / 古典の指導については、我が国において継承されてきた言語文化に親しんだり理解したりすることが求められているが、各者、どのような工夫がなされているか。

A / 古典の指導については、古典に親しんだり理解したりできるようにするために、中学校で本格的な古典の学習が始まる第1学年での指導が重要なポイントになる。そのため、各者、第1学年で導入への配慮がされている。

東京書籍は「移り行く浦島太郎の物語」を、三省堂は「月を思う心」を、教育出版は「箱に入った桃太郎」を、光村図書は「いろは歌」の音読と「古典の世界」解説を取り上げ、各者とも綴じ込みでカラー図表を掲載するなど、生徒が古典を身近に感じられるように配慮されている。また、各者、第1学年で「竹取物語」と「故事成語」を、第2学年で「平家物語」と「枕草子・徒然草」「漢詩」を、第3学年で「万葉賞・古今和歌集・新古今和歌集」と「奥のほそ道」「論語」を取り上げている。ただし、教育出版は第2学年で「論語」、第3学年で「漢詩」の排列となっている。また、光村図書は第3学年で、直接「論語」は取り上げず、古文と漢文の「名句・名言集」として取り上げている。

Q / 書写においては、毛筆の指導と硬筆の指導の関連付けが求められているが、各者、どのように取り扱われているか。

A / 毛筆と硬筆の関連については、主な学習活動は報告書に記載のとおり。各者ともに毛筆の教材手本を硬筆で筆順等を確認し、毛筆で書くことを通して、毛筆で学んだことを硬筆らに生かすという関連を図って取り扱っている。

Q / 我が国の言語文化に親しむことができるよう近代以降の代表的な作家の作品を、いずれかの学年で取り上げることが求められているが、各者、どのように取り扱われているか。

- A /近代以降の文学については、各者とも代表的な作家と作品を取り上げており、本文の後に、作品や作者についての詳細な解説を掲載し、生徒の文学作品への興味・関心を高めるように工夫されています。東京書籍は、第1学年で芥川龍之介の「トロッコ」、第2学年で太宰治の「走れメロス」、第3学年で夏目漱石の「坊っちゃん」を、三省堂は、第1学年で芥川龍之介の「トロッコ」、第2学年で山川方夫の「夏の葬列」と太宰治の「走れメロス」、第3学年で森鷗外の「最後の一句」を、教育出版は、第1学年で宮沢賢治の「オツベルと象」、第2学年で夏目漱石の「坊っちゃん」、第3学年で村上春樹の「バースデイ・ガール」を、光村図書は、第1学年で夏目漱石の「坊っちゃん」、第2学年で菊池寛の「形」、第3学年で森鷗外の「高瀬舟」を取り上げている。また、東京書籍は、教材に関連させ、各学年の「名作を読もう」で、三省堂は、各学年の巻末の「読書の広場」で、教育出版は、各学年の「広がる本の世界」で、光村図書は、各学年の「読書案内」で、著名な作品を紹介し、近代の文学作品の読書につなげるように工夫されている。
- Q /読書の指導については、我が国の言語文化に親しむことや、自分の考えを広げたり深めたり、生き方や社会との関わり方を支えるといった、読書の意義や効用を理解することが求められているが、各者、どのように取り扱われているか。
- A /各者、読書案内において、テーマ別に作品を紹介し、生き方や社会との関わり方について、自分の考えを広げたり深めたりできるように工夫されている。東京書籍は、「本で世界を広げよう」を、三省堂は、「私の読書体験」「読書の広場『小さな図書館』」を、教育出版は、「広がる本の世界」を、光村図書は、「読書案内『本の世界を広げよう』」を掲載し、生徒の読書意欲を高め本を手にしさせることを通して、読書の意義や効用を理解させるように工夫されている。
- Q /図書館の利活用や読書活動の充実について、各者、どのような配慮がなされているか。
- A /各者、図書館の利活用や読書活動の充実については、情報を収集したり調べたりするための図書館の利活用を含めて読書活動としてとらえ、さまざまな「読書活動」を設定している。学習情報センターとしての図書館の利活用を図った活動のほかに、東京書籍は、第1学年で本のポップづくり、第2学年でビブリオバトル、第3学年で読書会を、三省堂は、第1学年でブッククラブ、第2学年でビブリオバトル、第3学年でブックトークを、教育出版は、第1学年で本の帯やポップづくり、第3学年でビブリオバトルを、光村図書は、第1学年でポップづくり、第2学年で本の紹介合戦、第3学年でブックトークを、読書活動として取り上げ

ている。光村図書の各学年の読書活動は、「本を紹介する」「感想を共有する」「読書活動をデザインする」の3観点で設定されている特色がある。

Q /書写においては、国語の標準配当時数内で適切な時数を充てることから、国語との関連が重要と考えられるが、各者、どのように取り扱われているか。

A /国語の標準配当時数が、第1・2学年は各140時間、第3学年は105時間のうち、書写に充てられるのは第1・2学年が各20時間程度、第3学年が10時間程度であることから、国語と書写における学習活動の関連を図ることは、重要。そのため、各者ともに国語における言語活動と書写の学習活動の関連付けに配慮されている。それは、書写の報告書の3つ目の観点である「硬筆と毛筆の関連について」の学習活動に記載しました、手紙を硬筆で書いたり、文学作品や古典の文学作品の一部を硬筆で書いたりする際に、国語の教材が用いられていたりするほか、各者、巻末に「常用漢字表」を掲載し、楷書と行書の書き方を示すとともに、漢字の習得に資するものになっている。教育出版では、「小学校で学習した漢字一覧表」と「中学校で学習する漢字一覧表」も掲載されている。

Q /漢字の指導に関わり、生徒が実生活や他教科等の学習における使用や、読書活動の充実に資するため、確実に習得することが求められると思うが、各者、どのような配慮がなされているか。

A /漢字の確実な習得に資するため、各者、教材の脚注欄や教材末に新出漢字を示し、音訓や用例が確認できるようにするとともに、各学年巻末に筆順が示された「新出漢字一覧」や「常用漢字表」を掲載しています。教育出版と光村図書は、「小学校6年生で学習した漢字一覧」が掲載されている特色がある。また、東京書籍は、「漢字道場」、三省堂は、「漢字を身につけよう」、教育出版は、「漢字の練習」、光村図書は、「漢字に親しもう」を掲載し、練習問題を通して確実な習得を図るように工夫されている。さらに、東京書籍、教育出版、光村図書では、筆遣いや字形を書き文字に近づけたフォントやユニバーサルフォントを採用するなど、見やすく、わかりやすくするように配慮されている。

Q /近年、教科指導におけるICT活用が求められているが、各者、どのような配慮がなされているか。

A /報告書の「使用上の配慮等」及び「その他」に記載のとおり、各者、1人1台端末を活用した学習活動として、デジタルコンテンツの導入がされ、二次元コード（QRコード）を掲載するなど、使用上の便宜が図られている。また、書写では、動画資料が閲覧でき、毛筆教材の筆遣い

や運筆がわかりやすくなるように工夫されている。さらに、各者、国語、書写ともに、学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、国語・書写の採択の審議に入る。

まずは国語から。

- 調査委員会での調査研究報告によると、4者とも、よく工夫をされ配慮されている。その中でも光村図書のみページ数が上に記されており使用の面でどちらに記されていても不便はないが資料・参考書・辞書・ノートなどを広げた時に見やすいのではないか。そのなかで現在使用している光村図書が良いと思う。
- 表紙から裏表紙、目次から文法、学習をする面でいくつもの題材をもとに繰り返し学びにあふれている。さらに日常的に使える語彙を豊かにする工夫や学んだことをもとに表現す活動が設定されている。さらに各単元を使って思考力・判断力・表現力を意識しながら学習できるつくりになっている。
- 書写については、日常生活における文字文化など文字を正しく美しく書くだけでなく文字の美しさや文字に対する親しみやすさを持たせる工夫がなされている。

会 長／他の意見はないか。(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、国語は光村図書と決定することとしてよろしいか。(異議なし)

それでは、国語については、全会一致で光村図書の教科用図書を採択することと決定する。

引き続き、書写の採択の審議に入る。

これまでの審議の経過を踏まえて、書写は光村図書と決定することとしてよろしいか。(異議なし)

それでは、書写については、全会一致で光村図書の教科用図書を採択することと決定する。

【社会（地理的分野・歴史的分野・公民的分野・地図）】

◆委員長報告

委員長／社会小委員会委員長、紋別市立紋別中学校長の可児幹博です。

社会小委員会は、9名の調査委員で、7月6日に開催された第1回調査委員会以降、「教科書編成趣意書」、道教委発行の「採択参考資料」等を参考資料としながら、取り扱い内容、排列、分量等内容の構成、使用

上の配慮事等の観点に従って調査研究を行ってきた。地理的分野・歴史的分野・公民的分野・地図の各分野ごとにそれぞれの観点に基づいて報告する。

初めに地理的分野について報告する。地理については東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版の4者について調査研究を行った。

取り扱い内容については、各者とも、関心を高め、多様性を理解し、地理的・地域的特色を理解し、身に付けた調査の視点や方法から地域の課題を解決していこうとする態度が身に付くよう工夫がされている。

分量等の内容構成については、各者とも課題の設定、その分析と解決に個人やグループで取り組む活動を通して、単元全体で考えを深めたり、広めたりする学習活動が取り上げられ、分量も妥当である。

使用上の配慮事項については、各者とも生徒の学習意欲を高める工夫がされており、基礎事項の確認や要約・説明等の活動を通し、主体的に学習に取り組めるよう配慮されており使用上の便宜が図られている。

次に歴史的分野について報告する。歴史は東京書籍、教育出版、帝国書院、山川出版、日本文教出版の5者について調査研究を行った。取り扱い内容については、各者、小学校で学習した人物、文化財等を発展的に調査したりまとめたりする学習や、歴史的特徴を多面的・多角的に考察したり、時代の特色を理解する活動ができるよう工夫されている。

分量等の内容構成については、各者とも、資料からの読み取りなどから課題を設定し、時代の特色や変化について考えを広めたり深めたりする学習活動が取り上げられている、歴史の学び方についての学習後に時代区分毎に時代の特色について学ぶな、系統的・発展的に学習できるよう工夫がなされており、分量も妥当である。

使用上の配慮事項については、各者とも、北海道の文化や歴史、特にアイヌの資料が増えており生徒の学習意欲を高める工夫がされている。

次に公民的分野について報告する。公民は東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、自由社の5者について調査研究を行った。

取り扱い内容については、各者とも対立と合意、効率と公正などに着目して、国や地方公共団体の果たす役割を考察したり、より良い社会を築いていくために解決すべき課題を考察し、説明や論述したりする活動が工夫されている。

分量等の内容構成については、各者とも、学習課題を設定し見通しをもたせるとともに、課題について調べたり話し合ったりする活動を設け、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。また、課題を探究する活動を設定し系統的・発展的に学習できるよう工夫されており、分量も妥当である。

使用上の配慮については、各者とも、北海道の事例から地方自治を考察できるようにしたり、北海道の写真を掲載したりするなど学習意欲を高める工夫がされている。また、章や単元の冒頭や終末において学習の見通しや、学んだことを振り返って整理する活動を掲載するなど主体的に学習できるよう工夫されている。

最後に地図について報告する。地図は東京書籍、帝国書院の2者について調査研究を行った。

各者とも、地域に見られる特色を示す事項についての主題図、写真、グラフ等の資料を数多く取り入れ、事象についての関連や相違を考察しやすく工夫されている。

分量等の内容構成については、各者とも読図を通して地域の特色を整理したり、話し合ったりする活動ができるようになっており、考えをまとめる学習活動が取り上げられている。

使用上の配慮については、各者、北海道に関する多くの資料が掲載されるとともに、北海道の一般図も全体が見渡せるものと、拡大されているものが用意され、生徒の学習意欲を高める工夫がされている。

次に、小委員会における協議の概要について報告する。

小委員会においては4点について確認をした。

- ・各者とも写真や統計資料を豊富に掲載し、特色について理解しやすく、比較や考察も行いやすい構成になっている。
- ・各者とも身近な事例を取り上げたり、自分の考えを説明したり論述する活動がしやすく工夫されている。
- ・各者とも生徒の学習意欲を高め、主体的・対話的に学べるよう工夫されている。
- ・各者とも社会科における知識・技能が確実に習得できるよう工夫されている。

また、検討事項の確認ということで

- ・地図帳の大きさの違い（B5, A4）
 - ・デジタルコンテンツの内容
 - ・歴史と地理・公民の教科書会社の違いによる指導上の課題
- の三点について協議した。

以上で社会小委員会の報告を終わる。

◆質疑応答

会長／社会の調査研究報告について質問等はないか。

Q / 地理的分野について、北方領土に関する学習を充実させることが求められているがこのことについて、各者、どのような配慮がなされているか。

A / 北方領土の学習については各者とも基本的学習事項として取り上げられている。

Q / 歴史的分野について、小学校社会科との接続が重要であるが、各者どのような配慮がなされているか。

A / 各単元の冒頭で、小学校の教科書に登場する語句や写真・イラストな

どの資料を使った，学習のふり返りができるように構成されている。また学習の節目で小学校での学習を想起し，中学校での 学習の見通しを立てたうえで，各単元の学習に進むことで，「見方や考え方」を高め，理解をより深められるように工夫されており，小学校と中学校とをつないだ「7年間の社会科学習」が展開される、生徒に「公民的資質の基礎を養う」ことができるようになっている。

Q / 地理的分野・歴史的分野・公民的分野について、各地域の特色について学習するが、特に北海道に関する学習においては、各者どのように取り扱われているか。

A / 各社とも北海道の「自然環境」「歴史環境」「地方自治」を中心とした各種資料、写真などを通じての考察を通し、生徒の学習意欲がたかまるよう工夫されている。

Q / A4判の地図帳のサイズについてどのような意見があったか。

A / B5からA4になることは教室の個人用の棚の大きさの事は気になるが、A4の大きな版の方が生徒にも見やすく指導もしやすい、という意見が出ていた。

Q / アイヌの人たちの歴史や文化等に関する学習が大切であるが、このことについて、各者、どのように取り扱われているか。

A / アイヌの人たちの歴史や文化等に関する学習は、各者、民族の歴史や文化、交易、人権、地名などについて、教科書本文、囲み資料、写真などを用いてアイヌ民族の歴史や文化について取り上げている。取り扱う箇所やページに差はあるが、アイヌの人々の歴史的経緯や「アイヌ語」に由来する事項を取り上げるなど、アイヌ民族に関する学習の導入や発展的学習が図れるよう配慮されている。

Q / 歴史・地理・公民の教科書会社が違うことで指導上の課題等はないか。

A / 教科書会社が違うことによる指導上の課題は特にはない。しかし例えば地理・歴史並行型で指導するうえでは同一の教科書であった方が用語の統一が図れる。また、同一の教科書会社であれば、系統の似た図版や資料が使われており、違和感なく取り組めるということがいえる。また、地図と地理の教科書は同一の方が同じデータを使っており生徒も理解しやすい。

Q / 「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力，判断力，表現力等」

の育成が求められているが各者どのように取り扱われているか。

A /各者、単元を貫く課題を設定し、生徒に見通しをもたせ、課題解決的やまとめの学習を設定し、「見方・考え方」の視点や方法を示すことで、「社会的な見方・考え方」を働かせ、資質・能力が身につくよう単元を構成している。

Q /地図についても各地域の特色を考えるようにすることが求められているが、特に、北海道に関する記述について、各者どのように取り扱われているか。

A /数多くの写真を取り入れ、事象の分布や空間的広がりと実際の景観を結び付ける工夫がされている。北海道の一般図については、全体が見渡せるものと、拡大図が用意され、用途によって調べやすくなっている。

Q /デジタルコンテンツの充実については各者どのようになっているか。

A /各者とも、一人一台の端末を活用した学習活動としてQRコードが掲載されているが、コンテンツの内容には差がある。国土地理院等へのリンクのみ、自社の復習教材、NHKフォースクールなどにリンクが繋がっているものなどがあつた。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長 /引き続き、社会の地理的分野の採択の審議に入る。

● 各者とも、学習意欲を高め、主体的に学習に取り組む工夫が見られる。その中でも教育出版については、道内の市町村を取り上げている個所数も83箇所と多く、自然災害や防災に関するページ数も55箇所と多く取り扱われ、小学校から高校までの学びの繋がりを意識した内容になっている。

● 身近な地域、社会を考えることができる教材、内容になっており、課題解決に取り組む内容が充実していることから、教育出版が良いのではないかと思う。

会 長 /他の意見はないか。(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、社会の地理的分野は教育出版と決定することとしてよろしいか。(異議なし)

それでは、社会の地理的分野については、全会一致で教育出版の教科

用図書を採択することと決定する。

引き続き、社会の歴史的分野の採択の審議に入る。

- 教科書の内容全般で、時代をイメージできるイラストが多く、視覚的に捉えることができ、アイヌ民族の歴史文化を取り上げた箇所も多く取り上げられていること、北海道に関する記述が多いことから、帝国書院が良いと思う。
- 現行の使用教科書であること、時代をイメージできるイラストが多く取り上げられていること、北方領土や自然災害、防災に関することも多く取り上げられていることから、帝国書院が良いと思う。

会 長／他の意見はないか。(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、社会の歴史的分野は帝国書院と決定することとしてよろしいか。(異議なし)

それでは、社会の歴史的分野については、全会一致で帝国書院の教科用図書を採択する。

引き続き、社会の公民的分野の採択の審議に入る。

- 章全体の学習をあらかじめ見通しができる部分に工夫がされており、見え方、考え方や問いに独自のマークを付けて強調されており、本文と主文のバランスも良く、全体的に学習意欲を引き出す工夫がされていることから、教育出版が良いと思う。
- 各者とも大きな差はないが、教育出版が良いと思う。現代や過去の社会的事象を考察し社会の世界を捉えなおし自己との関わりを考へて今日的な課題や解決について探求できる内容となっている。また、相対的に記述内容が豊富で理解深めるべき概念や理論を明確に説明しているうへ、レイアウトも見やすく整理されており生徒の自主的な学習に適している。道内市町村を取り上げられている個所が多く、さらに自然災害や防災を取り上げられている個所も多い。

会 長／他の意見はないか。(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、社会の公民的分野は教育出版と決定することとしてよろしいか。(異議なし)

それでは、社会の公民的分野については、全会一致で教育出版の教科用図書を採択することと決定する。

引き続き、地図の採択の審議に入る。

- 各者とも内容においては大きな差はないが、帝国書院は鮮やかな 5 色印刷で明るく全体的にとっても見やすい。A4 判への大判化によって地域の特徴がとらえやすく、迫力のある鳥瞰図も世界への関心を引き出す

工夫だと思う。構成、排列、分量においてもバランスが取れていることから、帝国書院が良いと思う。

- 資料として活用するにあたり非常に大きくて見やすく、近年増えている、自然災害、防災に関する記載も多いことから、帝国書院が優れていると思う。

会 長／他の意見はないか。(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、地図は帝国書院と決定することとしてよろしいか。(異議なし)

それでは、地図については、全会一致で帝国書院の教科用図書を採択することと決定する。

【数学（数学）】

◆委員長報告

委員長／数学小委員会委員長、湧別町立湧別中学校長の久間博文です。

数学小委員会は、5名の調査委員で、調査委員会を3回開催した。

第1回調査委員会以降、「教科書編修趣意書」、北海道教育委員会発行の「採択参考資料」等を参考資料とし、取扱内容、内容の構成・排列については6観点、使用上の配慮等については3観点を設定し、ポイントとなる学年の教科書にスポットを当てつつ、学年間のバランスをとりながら調査研究を行った。

まず、取扱内容、内容の構成・排列の6観点について説明する。1つ目の「数と式」は、無理数を扱う第3学年の二次方程式について。2つ目の「図形」は、論証が重要視される第2学年の三角形・四角形について。3つ目の「関数」は、関数概念のスタートとなる第1学年の比例・反比例について。4つ目の「データの活用」は、新たに加わった内容を扱う第2学年について。5つ目の「主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応」は深い学びへの展開が期待される第3学年での特徴的な単元について。6つ目の「内容の構成・排列」は、学年バランスを考え第1学年の図形の移動と作図について。

以上のように、ポイントを踏まえ、スポットを当てて調査研究した。

次に、使用上の配慮等の3観点について説明する。1つ目は、学習意欲を高めること。2つ目は、主体的に学習に取り組むこと。3つ目は、使用上の便宜。尚、3つ目の使用上の便宜においては、ノート・レポート作成指導、QRコード端末学習、ユニバーサルデザイン化について、取り上げ方に多少の違いはあるものの、7者すべてで採用されているので、この後の説明では割愛する。また、その他の欄にある「学習者用デジタル教科書の発行」も7者すべてで予定されている。この点についても、この後の説明では割愛する。

それでは、1者ずつ調査研究の結果について報告する。

東京書籍について報告する。1つ目の観点として、一定の長さのロープ

を使って作った花壇の長方形の面積と辺の長さの関係を文字や実数に着目して調べる活動を通して二次方程式について理解を深められるようにし問題解決のサイクルを回して考える力の身に着けるような工夫がされていた。2つ目の観点として、遊園地にある乗り物の動きから平行四辺形になるための条件を考える活動を通して三角形や平行四辺形の基本的な性質を具体的な場面で活用できるようにし、数学と日常生活の関連を実感できる工夫がされている。3つ目の観点として、関数について。プールに水を入れてからの時間と水の深さの関係を表・式・グラフで調べる活動を通して比例反比例を用いて具体的な事象を捉える考察できるようにし、生徒の疑問を引き出し疑問から次の学びへとむかう意欲が高まる工夫がされている。4つ目の観点として、花見期間と直前期間のスナック菓子の販売数のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて、位や活動を通して分図の傾向を比較し読み取る考察できるようにし、日本の文化の尊重、食料との関連を実感させる工夫がなされていた。5つ目の観点として、三角形と比の学習において学習課題を設定し見通しを持たせ四角形のカプセルの midpoint を結んでできる四角形について考える条件を変えて調べた結果について話し合い、考えを広げ深める活動がとりあげられていた。6つ目の観点として、基本的な構図の作図の方法を考察し表現する問題をつかむなど系統的・発展的に学習できるようにし、観察や操作を取り入れた活動ができる工夫がされていた。使用上の配慮について、1つ目の観点として、内容のまとまりごとに問題解決の過程を振り返り学びを振り返るの掲載、学びを広げようにおいて、数学の実社会や職業とのつながりを紹介する工夫がされている。2つ目の観点として、論理的な思考力を伸ばす「数学的活動Q」や生徒の疑問を引き出して学習への動機づけをする、「章とびら」の掲載に工夫がされていた。3つ目の観点として、強化横断的な視点での関連教科書へのリンクが特徴である。

大日本図書について報告する。1つ目の観点として、数当てゲームの計算の手順から方程式を作りいろいろな数を代入し公式を成り立たせる文字の値を調べる活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現できるようにし、見出した問題をもとに苦手を設定し、数学的な見方、考え方を働かせる工夫がされている。2つ目の観点として、遊園地にある乗り物の動きから平行四辺形になるための条件の考えの活動を通して三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用できる、問題発見から解決の流れを示して自主的自立的に数学的活動に取り組むことができる工夫がされている。3つ目の観点として、等速に走っている選手の走った時間と進んだ距離の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例反比例を通して具体的な事象を捉え考察し表現できるようにし見出した問題の解決の仕方が身に着くことができる工夫がされている。4つ目の観点として、日本とイランのバレーボール選手の身長データを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通してデータの分布の傾向を比較して読み取り批判的に考察し判断できるようにし統計的な問題の解決の方法にそった活動となる工夫がされている。5つ目の観点として、関数

の利用の学習において学習課題を設定し見通しを持たせるとともに、自動車の停止距離について考え、停止距離を求める為に必要なことについて話し合い、考えを広げたり、深めたりする活動を取り上げている。6つ目の観点として、2つの図形の関係について考察し表現する問題を扱うなど系統的、発展的に学習できるようにし、活動、例、例題の適切な配置によって学ぶことを明確にする工夫がされている。使用上の範囲についての観点として、1つ目の観点として、生徒自らが問題や疑問を見出すことができるよう、考えようを掲載したい。数学や社会のつながりが実感できる「MATHFUL」を掲載できることがされている。2つ目の観点として、巻頭における数学の進め方についての説明や問題発見、問題解決の流れを配置した活動を掲載する工夫がされていた。3つ目の観点として、日常生活での数学の例示や曜日ごとの色の配色、色の設定が特徴である。

学校図書について報告する。1つ目の観点として、敷き詰める枚数が決まっている太陽電池の縦と横に並べた枚数の関係を表した方程式を立て、解を考える活動を通して二次方程式を解く方法を考察し表現できるようにし、どのように解決していけばよいか、主体的に考えながら取り組める工夫がされている。2つ目の観点として、公園の遊具を平面図形に置き換えて考える。基本的な平面図形の性質を活動を通して三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活動できるようにし、図形がその性質を生かして利用されていることに気付ける工夫がされている。3つ目の観点として、視力検査に使われているランドルト環の直径と視力間関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例反比例を通して具体的な事象を捉え考察できるようにし比例や反比例が身近で活用されていることが実感できる工夫がされている。4つ目の観点として、メルボルンと東京の最高気温を四分位範囲や箱ひげ図を用いて分布の傾向を読み取り考察できるようにし比較する課題を設けることで対話的な学びが実現できる工夫がされている。5つ目の観点として、円周角と円の接線の学習において、学習課題を設定し見通しを持たせるとともに、円の接線の作図の方法について考える。接線が作図できる理由について話し合い、考えを広げ深める活動が取り上げられている。6つ目の観点として、2つの図形の関係について考察し、表現する問題を扱うなど系統的、発展的に学習出来るようにし、生活との関連を重視する対応が養われる工夫がされている。使用上の配慮について、1つ目の観点として、章の学習の最後に「できるようになったこと」や「さらに学んでみたいこと」を記入できる欄の設定、本文中の「おしえて」に学習の中で感じる疑問を取り上げるという工夫がなされている。2つ目の観点として、自然に出される疑問を提示した「次の課題へ」や、課題を発見し、自分で学習を進めることができるようにする「見方・考え方」の掲載という工夫がなされている。3つ目の観点として、教科書を使った数学の学び方の掲載が特徴的である。

教育出版について報告する。1つ目の観点として、一定の長さのロープを使って作った長方形の花壇の面積と辺の長さや実数に着目して調べる

活動を通して二次方程式を解く方法を考察し表現できるようにし他者の考えを聞いたり自分の考えを説明したりする場面を設ける工夫がされている。2つ目の観点として、遊園地にある乗り物の動きを平面図形に置き換えて考え平行四辺形になるための条件を使って仕組みを考察する活動を通して三角形や平行四辺形の基本的な性質を具体的な場面で活用し数学と生活の関連を感じることができる工夫がされている。3つ目の観点として、水槽に水を入れ始めてからの時間と水面の高さの関係を表、式、グラフで調べる活動を通して比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現できるようにし問題発見、解決の数学的活動のプロセスを例示する工夫がされている。4つ目の観点として、札幌・東京、堺、那覇の8月の各日の最高気温のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通してデータの分布の傾向を比較して読み取り批判的に考察し判断できるようにし数学と生活との関連を感じることができる工夫がされている。5つ目の観点として、平方根の活用の学習において、学習課題を設定し見通しを持たせると共に短い辺と長い辺の関係を考え、どのような四角形で構成されているかを話し合い、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。6つ目の観点として、2つの図形の関係について考察し表現する問題を扱うのと傾向的、発展的に学習できるようにし、奇習学習とのつながりがわかる工夫がされていた。使用上の配慮等について、1つ目の観点として、章の導入段階において「Let's Try」で日常の事象から数学的活動を始めることや数学の広場で、生徒の学習を深め、広げるための話題を取り上げる工夫がされている。2つ目の観点として、既習事項で定着されていない内容を全ページで確認できる、戻って確認、章の扉の中で社会や生活先端テクノロジーなどに関する話題を掲載という工夫がされている。3つ目の観点として、小中、学年間の接続、学びのマップの掲載が特徴である。

啓林館について報告する。1つ目の観点として、カレンダーを見てある日の真上の数と真下の数の積の関係を表した方程式をたて、解を考える活動を通して二次方程式を解く方法を考察し、表現できるようにし自分の考えを伝えたり他者の考えを自分の考えと比較したりする場面を設ける工夫がされている。2つ目の観点として、折り畳み式テーブルを平面図形に置き換えて考え、基本的な平面図形の性質を使って仕組みを考察する活動を通して三角形や平行四辺形の基本的な性質など具体的な場面で活用し、必要な図を描いて図形の性質を発見、予想し証明する工夫がされている。3つ目の観点として、線香に火をつけてからの時間と燃えた長さの関係を表、式、グラフで調べる活動を通して比例反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現できるようにし数学的な概念・原理・法則を、具体的な例を通して理解できる工夫がなされている。4つ目の観点として、接続会社ごとのインターネットの通信速度のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動をとおしてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断できるようにし、協力学習が進められる工夫がされている。5つ目の観点として、三平方の定理の学習において、

学習課題を設定し見通しを持たせるとともに富士山の頂上から見渡せる範囲について考える。範囲を求める為に必要なことを話し合い、考えを広げ、深める活動が取り上げられている。6つ目の観点として、基本的な作図の方法を考察し表現する問題を扱うなど系統的、発展的に学習出来るようにし既習事項とのつながりがわかる工夫がされている。使用上の配慮について、1つ目の観点として、学習の扉や、利用の説などで学習内容に関連する身の回りの題材を取り合う自分が「自分から学ぼう編」を裏表紙から始まる縦開きでの構成という工夫がなされている。2つ目、目的意識をもって学習に取り組めるように設けた「小見出し」や、考え方のポイントを示唆するキャラクターの掲載という工夫がなされている。3つ目、必修とオプションの教科書2部構成が特徴である。

数研出版について報告する。1つめの観点として、周の長さが決まっている長方形の面積と辺の長さの関係を表す方程式を立てて色々な数を代入して調べる活動を通して、2次方程式を解く方法を考察し表現できるようにし他者の考えをもとに自分なりに数学的な見方、考え方を働かせる工夫がされている。2つ目の観点として、二段重ねの工具箱のアームの取り付け方が四角形などの基本的な平面図形の性質を見い出す活動を通して三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用できるようにし、数学と生活との関連を感じることが出来る工夫がされている。3つ目の観点として、碁石と将棋の駒のつかみ取った数と重さの関係を表式、グラフで調べる活動を通して、比例反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し、表現することが出来るようにし、対話形式により数学的な見方、考え方を働かせることが出来る工夫がされている。4つ目の観点として、2つのグループのシャトル欄のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通してデータの分布の傾向を比較して読み取り批判的に考察し判断できるようにし生活における諸問題に触れられるような工夫がされている。5つ目の観点として、平行線と線分の比の学習について、学習内容を設定し見通しを持たせるとともに三角形と線分の比を活用する方法について考え補助線の引き方について話し合い考えを広げたり深めたりする活動を取り上げられている。6つ目の観点として、基本的な作図の方法を考察し、表現する問題を扱うなど、系統的発展的に学習できるようにし、既習事項との繋がりがわかるようになっている。使用上の配慮について、1つ目の観点として、学んだ内容を解決するTryを設けたり数学を学びながら福祉、資源、地球環境などの諸問題に触れたりする工夫がされている。2つ目の観点として、本冊の内容を深め学びを発展させる別冊や新たな学習事項と既習事項との繋がり共通点や相違点を掲載する工夫がされている。3つ目の観点として、重要減に向けた分冊と対応的な学びに導く記載が特徴的である。

日本文教出版について報告する。1つ目の観点として、周の長さが20cmの長方形の辺の長さと面積の関係を表した方程式に数を代入して調べる活動を通して、2次方程式を解く方法を考察して表現できるようにし他者の考えをもとに自分なりに考えて他と協力して発展的に考える学習

場面を取り入れる工夫がされている。2つ目の観点として、二段重ねの箱の取り付け方から四角形などの基本的な平面図形の性質を見出す活動を通して三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用できるようにし、学習したことを日常生活や次の学習に活動できる工夫がされている。3つ目の観点として、正方形の一片の長さとの周の長さの変化などの伴って変わる二つの量の関係を表、式、グラフで調べる活動をとおして比例反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができるようにし日々の生活と数学の関わりを考える契機となる工夫がされている。データの活用については第二学年については福岡、大阪、東京の猛暑日のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通してデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができるようにし生活の場面と関連づけ探究できる工夫がされていた。5つ目の観点として、三平方の定理の活用の学習において学習課題を設定し見通しを持たせるとともに海岸から見える限界の地点について考える。直角三角形を見出すことについて話し合い、考えを広げ深める活動が取り上げられている。6つ目の観点として、基本的な作図の方法を考察し表現する問題を扱うなど系統的発展的に学習できるようにし既習事項とのつながりがわかる工夫がされている。使用上の配慮について、1つ目の観点として、「暮らしと数学」や「数学研究室」で、数学的活動の楽しさを実感できる課題学習の採用、問題の条件の一部を変えて新しい問題を作る数学的活動の場面の設定という工夫がされている。2つ目の観点として、巻頭の数学的な見方考え方を身に着けようや小説の解説の見方考え方、巻末の自分と互いの考えを伝えあう対話シートを掲載による学び方の明示という工夫がされている。3つ目の観点として、指導事項の詳細が記述、誤答への注意喚起が特徴である。

以上で、数学小委員会の報告を終わる。

◆質疑応答

会 長／数学の調査研究報告について質問等はないか。

Q ／新学習指導要領の中学校数学における改訂ポイントである「数学的活動のより一層の充実」と「主体的、対話的で深い学びの実現」に関して特筆ある教科書はどれか。

A ／どの教科書も、新学習指導要領中学校数学科の目標のもと、数学的な見方・考え方を働かせて数学的活動がより一層充実されるよう、「問い」を抱かせて新たな学習に入り、「問い」を主体的に解決することができるように過程で、対話的な学習活動を取り入れ、新たな知識・技能を習得し、それらを統合し思考、態度が変容する深い学びへと繋がるように構成されている。学習場面で働かせるべき数学的な見方・考え方を明示して粘り強く取り組むことができるような配慮が見られたのは、教育出版と日本文教出版である。

Q / 新学習指導要領の中学校数学における改訂ポイントの一つ「統計教育の充実」に関して特筆ある教科書はどれか。

A / どの教科書も、統計的な問題解決サイクル (PPDAC サイクル: Problem 問題、Plan 計画、Data 収集、Analysis 分析、Conclusion 結論) を身に付け、その良さを実感できるようにデータの素材や学習展開に工夫が見られた。特に新たに加わった累積度数、四分位範囲や箱ひげ図について詳しく丁寧に扱っていたのは、東京書籍、数研出版、日本文教出版である。

Q / 各教科書の最大の特徴は何か。

A / 東京書籍は、「教科横断的な視点での他教科の関連教科書へのリンク」、「図形分野における必然性を感じさせる課題提示」。大日本図書は、「数学と日常生活とのつながりの多彩で効果的な紹介」。学校図書は、「教科書を使った学び方の明示」。教育出版は、「小中間、学年間の滑らかな接続」、「学習場面で必要となる数学的な見方・考え方の明示」。啓林館は、「必修とオプションの教科書 2 部構成による授業外学習との連動性向上」。数研出版は、「主体的で対話的な学びへと必然的に導く対話の採用」と「分冊化による重量軽減」。日本文教出版は、「指導事項の丁寧で詳細な記述」「誤答注意喚起などの学習者へのきめ細かな配慮」「学習場面で必要となる数学的な見方・考え方の明示」。

Q / 生きて働く知識の獲得に向けて特筆ある教科書はどれか。

A / 習得した知識が生きて働かせていくための教科書における役割は、一部分ではなく詳細にわたって整理された知識がまとめられていることだと考える。数研出版と日本文教出版が、詳細かつ明確に知識がまとめられており、家庭学習においても知識の確認などで活用可能なものであると考える。

Q / 数学と日常生活との関連について特筆ある教科書はどれか。

A / どの教科書も、学習ページ随所や巻末などで数学と日常生活とのつながりを紹介して、生徒の興味・関心が高まるよう工夫がなされている。東京書籍、大日本図書、教育出版、数研出版、日本文教出版で、効果的な例示がされていた。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、数学の採択の審議に入る。

- 各者とも学習内容に工夫がされていが中でも教育出版は全学年を通じて学習意欲を高め主体的に学習に取り組めるよう既習事項で定着していない内容を前ページで確認できるほか、学習内容が系統的、発展的に校正、排列されている。さらに学年の分量に適切で学校や生徒の実態に応じて弾力的な指導ができるよう工夫されているほか、ユニバーサルデザインを採用してわかりやすく学習を支援する工夫がされている。
- オールオホーツクで進めてきた授業改善を継続するうえで継続して使用すべきでは。単元に入る前に復讐のページを設定されていて、節ごとに基本の問題があり、章の終わりでは学習のまとめ、章の問題を繰り返し設定されている。基礎基本に有効である。巻末には全学年まとめた「学びのマップ」が系統的に学び直すことに有効である。

会 長／他の意見はないか。(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、数学は教育出版と決定することとしてよろしいか。(異議なし)

それでは、数学については、全会一致で教育出版の教科用図書を採択することと決定する。

ここで昼食のため暫時休憩。再開は13時10分とする。

【理科（理科）】

◆小委員長報告

委員長／理科の小委員会委員長、北見市立常呂中学校長の山中高弘です。理科小委員会における6名の調査委員で協議した概要について説明する。

協議の視点として、1点目は身近な題材を基に自然の現象、興味関心をどのように引き出すことができるか。2点目は、自ら進んで課題を見つけ解決できること。3点目は、実験観察を進める際の準備や手順、方法について、結果や考察のまとめ方についてどのように説明しているか。4点目は、日常生活との関連とユニバーサルデザインについて。5点目は写真や図、表について、地域的な題材の採用について検討した。

まず、東京書籍については、各節の導入に主体性を高める問い「問題発見レッツスタート」を設定し、単元末に生活関連のコラムや「暮らしと科学」の欄で生活に関連した内容取り上げるなど生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。巻頭の探究の流れをフローチャートに示すなど主体的に学習ができるように工夫がなされている。各学年の表紙ならびに裏表紙に、色鮮やかで非常に珍しい科学写真を載せるなどデザインには工夫を凝らしている。1年生は世界の活火山分布の地球儀、2年生では温帯低気圧の立体模型、3年生では星座早見盤のペーパークラフトを

掲載している。

大日本図書については、日常生活に関係のある写真を掲載している。科学の歴史や最新の情報などの読物資料を掲載している。レイアウトや本文の記述については、以前と同様なオーソドックスな内容となっている。巻頭に理科の学習の進め方について、巻末に探究の進め方について説明するページを設け、主体的に学習に取り組むことができるようにしている。国内の火山の分布では、北方領土や太平洋上の島に存する火山も詳しく記載している。再生可能エネルギーの利用や原子力、放射線について詳しく記述がある。

学校図書については、各学年の巻頭には「理科の学び方、授業を受けるコツ、教科書の使い方」について詳しく解説しており、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫がなされている。また、小單元ごとに「Can-Do リスト」で自己チェックができる工夫がなされている。2ページ、見開きの状態で学習内容が確認でき、生徒の視線があちこちに移動することがなく、今何を学習しているかがわかりやすく、教師も指示がしやすい。各所に参考となるQRコードがあり、スマホやタブレットがあれば動画や写真を確認することができる。環境について、新素材の紹介も詳しくしている。

教育出版についてはほとんどのページが見開きで構成されており、生徒がどこの部分を学習しているかわかりやすい工夫がなされている。実験観察の前後のようすを写真や図で説明しており、実験観察の結果が理解しやすくなっている。単元末に重要用語の整理や、生活関連のコラムを掲載など生徒の学習意欲を高め、何を学習したのかを振り返ることができる工夫がなされている。また、文字が最も大きく、ユニバーサルフォントを採用しているため、見やすくなっている。(道内の写真、記述が非常に多い。紋別流水科学センター、スケート選手、カーリング等)

啓林館については、日常生活や社会に関連したコラムを掲載し、興味を引き出す写真を掲載している。また、「つながる学び」で既習の学習内容のつながりを紹介し、学習内容を社会生活や未来に広げる読物を紹介している。スポーツ飲料やみりんなど生活にかかわりのある題材を提供して、生徒の興味関心を引き出す工夫がなされている。地質年代の新世代の地層「チバニアン」など新しい題材を紹介している。単元ごとのまとめの問題は生徒が取り組みやすく、学習の振り返りができる工夫がなされている。また、図の説明や動画について、QRコードを掲載している。

以上で、理科小委員会の報告を終わる。

◆質疑応答

会 長／理科の調査研究報告について質問等はないか。

Q ／今後、探究的な活動が必要であり、観察や実験が主要となるが、理科の学習過程において、各者どのような特徴があるか。

- A /各者とも観察や実験において、探究的な活動が進めやすく工夫がなされている。
- Q /排列にかかわって、第1分野、第2分野について、各者の違いはどのようなものか。
- A /各者とも、第1分野、第2分野について、大きな違いがない。ただ、啓林館は単元の進め方が独特で、実験・観察の教材の準備等で、これまでとは違う配慮が必要と考えられる。(1年天文、3年地質を学習する時期が早い。)
- Q /観察・実験したことを教科書で確認しやすくなっている工夫がある教科書はあったか。
- A /各者とも観察・実験が教科書において確認されやすくなっている。特に学校図書、啓林館、教育出版の三者は実験・観察が見やすいレイアウトになっている。東京書籍においては、ユニークな体裁であるが、実験観察を行う上で、これまでとは違った準備をする必要があるという意見があった。
- Q /実験やフィールドワークで北海道の地域性を取り上げる点で、教科書の違いはあるか。
- A /北海道の素材や写真を多く取り上げているのは、教育出版、東京書籍である。特に教育出版は2分野において、幅広い分野で北海道の題材を多数採用しており、生徒の興味・関心を引き出す工夫がなされている。
- Q /学び方、レポートの書き方について、特徴的なものはあったか。
- A /各者とも学び方、レポートの書き方について、巻頭または巻末等にわかりやすく説明されている。
- Q /配慮の必要な生徒への対応はどうか。
- A /各者とも、ユニバーサルデザインにもとづいて、紙面のレイアウトを行っている。特に教育出版は、フォントが大きく、カラーユニバーサルデザインを採用し、色弱の生徒への対応も行っている。

◆意見交換・採択協議

会長 /引き続き、理科の採択の審議に入る。

- 巻頭に基本的な学びの進め方が掲載され、単元ごとの学び方の流れがわかりやすく掲載されている。また、探究の進め方の順序が丁寧に説明されている教育出版が良いと考える。
- 教育出版が良いと考える。生徒が主体的に疑問を見つける活動や疑問を発表をもとに他者との話し合いの活動につながるような工夫がされている。また、理科の学習と日常生活との関連を気付かせる配慮、科学読み物が掲載されており、生徒の学習意欲が高まる工夫がされている。また、北海道にかかわりのある内容が多く取り入れられていて、ダイナミックなイラストや写真が多く取り入れられている。

会 長／他の意見はないか。(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、理科は教育出版と決定することとしてよろしいか。(異議なし)

それでは、理科については、全会一致で教育出版の教科用図書を採択することと決定する。

【音楽一般・器楽合奏】

◆小委員長報告

委員長／音楽小委員会委員長、北見市立上常呂中学校長の竹内剛です。

音楽小委員会は4名の調査委員にて、調査研究にあたっては音楽の活動を通して、生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しむという音楽科の目標を踏まえ、歌唱・創作・器楽の表現活動と鑑賞活動、また生徒の主体的・対話的で深い学びに対応する配慮など、「教科書編集趣意書」「採択参考資料」等を参考に、調査研究を進めた。

まず、音楽一般については、両者とも写真やイラスト、キャラクターによる吹き出しなどを用いて、生徒に課題意識を持たせ、興味・関心を高めながら学習ができる工夫がとられており、歌唱共通教材では、扱う学年に差異があり、その他の歌唱教材の多くで掲載曲に違いがあるが、鑑賞曲を含めて、両者とも〔共通事項〕が意識され、系統的・発展的に学習ができるよう扱われている。主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、両者とも生徒の考えを広げ、深める活動として扱われ、創作においては、教育出版では言葉のリズムや重ね方、音階の特徴、特に五音音階を活用して旋律をつくるよう取り扱われ、教育芸術社では音のつながりやリズムの重なり、和音の動きを活用して旋律をつくるよう取り扱われている。北海道とかかわりがある内容については、教育出版はソーラン節、時計台の鐘、ジンギスカンを紹介するCMソング創作などを取り上げ、教育芸術社はソーラン節、アイヌ古式舞踊を取り上げている。その他の観点については調査書に記載の通りである。

次に器楽であるが、両者とも写真やイラストを活用し、リコーダーや

和楽器などの奏法及び楽曲が掲載され、〔共通事項〕を意識しながら、目標を達成できるよう取り扱われている。主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、両者とも学習課題を設定し、生徒の考えを広げ、深める学習活動として、教育出版では曲の構成を考え、工夫する創作活動が取り扱われ、教育芸術社では日本の音階をもとに箏を活用した創作活動が取り扱われている。内容の構成・排列については、両者とも楽器を演奏するための姿勢や奏法、演奏技能を身につけ、系統的・発展的に学習できるよう取り扱われ、打楽器については、教育出版は資料として写真で奏法が掲載され、教育芸術社は項目として写真で奏法と練習譜が掲載されている。その他の観点については調査書に記載の通りである。

◆質疑応答

会 長／音楽の調査研究報告について質問等はないか。

Q / 生徒の興味関心を高めながら学習することができるよう、地域の実態などを活かした指導が大切だと思われるが、北海道にかかわる内容について、どのように取り扱われているか。

A / 「ソーラン節」については両者とも取り上げている。その他、教育出版では歌唱教材「時計台の鐘」「雪の降る街を」鑑賞曲：民謡江差追分、札幌コンサートホールキタラのパイプオルガン、地域名物ジンギスカンを活用したCMソング創作などが掲載されており、器楽では、北見出身のリコーダー奏者：安藤由香氏とアイヌ伝統楽器トンコリが掲載されている。
教育芸術社では「ソーラン節」の他、鑑賞曲でアイヌ古式舞踊、器楽では江差五勝手獅子舞が掲載されている。

Q / 「共通事項」についての指導、また「国歌」の取り扱いについては、どのように扱われているか。

A / 「共通事項」とは、学習指導要領に「身につけることができるよう指導する」こととして、「表現及び鑑賞の指導を通して、音楽を形作っている要素（リズム、速度、強弱、形式など）を感受し、それらに関する用語、記号などを理解すること」とされ、両者ともイラストや吹き出しを使い、ページ左に記号・用語が記載されている。
また「国歌」について、両者とも見開きページで、歌詞の内容もわかりやすく解説され、国歌の大切さや込められた願いも掲載されている。

Q / 主体的・対話的で深い学びの実現にむけた学習活動として、どのように扱われているか。

A / 両者ともキャラクターやイラストによるヒント提示など、課題意識を持たせ、考えを広げ、深める活動として扱われている。創作において、教育出版では「アクティブ・進んで学ぼう」というタイトルで、教育芸術社では「マイメロディ、レッツクリエイト」というタイトルで取り扱っている。主な学習活動として教育出版では、言葉のリズムや重ね方、また五音音階を活用し、旋律をつくり、教育芸術社では、音のつながりやリズムの重なり、五音音階、和音の動きを活用し、旋律をつくるよう取り扱われている。

また両者とも1人1台の端末を活用した学習活動としてQRコードが掲載され、教育出版では、歌唱範唱、鑑賞曲、創作資料など、教育芸術社では作曲者や演奏者、日本の音階、尾瀬の自然などの資料閲覧ができる。

Q / 「歌唱共通教材」の扱う学年に差異とはどのようなものか。

A / 学習指導要領にある「歌唱共通教材」は7曲あるが、そのなかから「各学年で1曲以上を選択」となっている。例えば「赤とんぼ」「花」は両者とも1年・23下で取り扱っており、「夏の思い出」は、教育出版1年、教育芸術社23上で、「浜辺の歌」は教育出版23上、教育芸術社1年で取り扱っている。

Q / 創作における「五音音階」と「和音」とはどのようなものか。

A / 「五音音階」とは、1オクターブ（8つの音）のうち5音が含まれる音階で、東アジア、東南アジアなど古くから使われている音階である。日本では民謡音階、都節音階、沖縄音階などがある。教科書記載曲では、ソーラン節、さくら、谷茶前、六段の調べなど「和音」は二つ以上の音が同時になる音をいい、音楽を構成する三要素のひとつで、音楽の三要素は、リズム（拍子）・メロディ（旋律）・ハーモニー（和音）をいう。

Q / 器楽において「打楽器」について、どのように扱われているか。

A / 教育出版は1ページ資料として、小太鼓、大太鼓、ボンゴ、コンガ、カホンの叩き方を写真で掲載。教育芸術社は項目として5ページ、クラベス、シェーカー、カウベル、アゴゴ、ボンゴ、コンガ、カスタネット、タンブリン、鈴、シンバル、小太鼓、大太鼓、カホン、ジャンベ、ドラムセットの叩き方の写真と奏法練習を掲載している。

◆意見交換・採択協議

会長 / 引き続き、音楽の一般の採択の審議に入る。

- 教育出版が良いと考える。進んで学び合おう、また、深めてみような

どの設定で音楽的な見方、考え方を働かせて主体的に学び、更には、表現を工夫したり、聞き取ったことを話し合い協働的に学ぶ工夫がよりされている。また、北海道に関わる教材、自然四季に関する教材などで、伝統文化の理解を深め愛する心情を育てる工夫がなされている。生徒の学習意欲が高め音楽を愛する心境を含む教科書として教育出版が優れている。

- 両者大きな差はなく、迷うところであるが、これまで使っていた教育出版が良いのではないか。

会 長／他の意見はないか。(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、音楽の一般は教育出版と決定することとしてよろしいか。(異議なし)

それでは、音楽の一般については、全会一致で教育出版の教科用図書を採用することと決定する。

会 長／引き続き、音楽の器楽の採択の審議に入る

- これまでの継続性を考慮し、器楽も教育出版が良いのでは。
- 教育出版については、多様な音楽に触れることができるように、世界の諸民族の楽器を掲載したり、琴と篠笛の家元からのメッセージにより、音楽を愛好する心情を育んだりするなど、生徒の学習意欲が高まるよう工夫されており、良いと思う。
- 北海道と関わりのある内容として、自分たちの身近な人物が取り上げられており、生徒の学習意欲が高まることから、教育出版が良いと思う。

会 長／他の意見はないか。(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、音楽の器楽合奏は教育出版と決定することとしてよろしいか。(異議なし)

それでは、音楽の器楽合奏については、全会一致で教育出版の教科用図書を採用することと決定する。

【美術】

◆小委員長報告

小委員長／美術小委員会委員長、北見市立小泉中学校長の平田和史です。4名の調査委員で各者教科書についての調査研究結果の報告を、お手元の調査研究報告書に書面上記載できなかった内容を中心に報告する。

まずは開隆堂 55 ページ。絵や彫刻については、第1学年は報告書の記載のとおり。第2・3学年では墨の濃淡で奥行きや広がりのある絵を描いたり、心象情景を立体に表現する活動等を通して、独創的・総合的

な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や、自分の表現方法を創意工夫して創造的に表現できるような配慮がみられ、それらの活動を通して目標を達成できるようになっている。デザインや工芸については、第1学年で身近なものの形や色彩から模様を考えたり、木の特長を生かして使いやすい工芸品をつくる活動を通して、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、創造的に表現する活動を通して目標を達成できるようになっている。第2・3学年については報告書の記載のとおり。

鑑賞については、第1学年で作者の表現した思いや作風などについて話し合う活動を通して、表現方法の違いや美術作品についての基礎的な理解や見方を広げたり、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わうことのできる構成になっている。第2・3学年については報告書の記載のとおり。

次に光村図書 56 ページ。絵や彫刻については、第1学年は報告書記載のとおり。第2・3学年では目の錯覚を利用して形や色彩のトリックを使って絵を描いたり、想像の生物のおもしろさや動きを立体に表したりする活動を通して、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫して表現できるような配慮が見られ、それらの活動を通して目標を達成できるようになっている。デザインや工芸については、第1学年では形や色彩を工夫して文字のデザインを考えたり、用途や条件に応じて発想を広げ、様々な用途の焼き物をつくるなど、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、創造的に表現する活動を通して目標を達成できるようになっている。第2・3学年については報告書の記載のとおり。鑑賞については、第1学年で版の表現のよさや多色刷りの美しさなどについて話し合う活動を通して、版画と絵の違いや美術作品についての基礎的な理解や見方を広げたり、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わうことのできる構成になっている。第2・3学年については報告書の記載のとおり。

続いて日本文教出版 57 ページ。絵や彫刻については、第1学年は報告書記載のとおり。第2・3学年では視点の違いや構図を工夫して印象の変化を生かした絵を描いたり、量感や動きの勢いなどを生かし、感情やイメージを立体に表したりするなど独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫して表現できるような配慮が見られ、それらの活動を通して目標を達成できるようになっている。デザインや工芸については、第1学年では自然物や人工物を単純化して模様を考えたり、紙の特性、形や色彩に着目し、美しい装飾をつくるなど、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技法を身に付け、意図に応じて創意工夫し、創造的に表現する活動を通して目標を達成できるようになっている。第2・3学年については報告書の記載のとおり。鑑賞については、第1学年で原始美術の造形的なよさや美しさなどについて話し合う活動を通して、美術文化や美

術作品についての基礎的な理解や見方を広げたり、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わうことのできる構成になっている。第2・3学年については報告書の記載のとおり。

次に、各者の主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習の活動については、いずれの教科書も題材において学習課題を設定して見通しをもたせるとともに、グループなど生徒同士で交流するなど、考えを広げたり深めたりする活動に重きを置いている。

また、内容の構成・排列については、各者とも、①各題材において、生徒に身に付けさせたい力や学習の狙いを囲みで示したり、教科横断的に学習できるように構成されていること、②全学年の巻末で「学習を支える資料」が掲載されていて、まとめの資料や作品制作の表現技法、地域の美術文化の紹介等、生徒の学習意欲を高める工夫がされている。

最後に小委員会における調査研究、協議したことで、特徴的な部分を三点報告する。

一点目は各者とも、これまで以上に鑑賞のための写真が豊富で多様性のある教科書となっている。また、質感の違う紙や、実寸大、見開き等が活用された構成で実感的な学びを得ることができること、二点目は、作者の言葉や制作過程の様子が写真で紹介されていたり、各題材、学習のポイントをマーク等で示されていたり、今後普及してくる生徒一人一台端末を活用したQRコードを掲載するなど、学習意欲を高める工夫がされていること、三点目はこれらの工夫を通して、生徒が学習しやすい教科書であることはもとより、免許外で指導している先生が多い現状から考えると、より適切に指導できるように配慮、工夫がされている、などを中心に協議した。

以上、美術小委員会の報告を終わる。

◆質疑応答

会長／美術の調査研究報告について質問等はないか。

Q /教科書検討にあたり、各者の主なねらいや特色は何か。

A /各者とも、授業で使いやすい教科書となるような工夫が随所で見られる。具体的には、各題材で、発想の手立てや制作の過程・様子、作者の言葉が紹介されていて、生徒が発想を広げて多様な表現に繋げるような配慮がされている。また、巻末の資料が充実していて、表現のための様々な技法や用具の使用法、美術史などが掲載されていることで、生徒の学習意欲を高められるようになっている。また、随所にQRコードが掲載され、技法などの動画や音声ガイド、生徒作品などのコンテンツにリンクさせることができる。また、カラーユニバーサルデザインの採用や、SDGs（持続可能な開発目標）を取り上げるなど、これからの社会情勢に対する配慮が各所に見られる。

Q /美術科においても、言語活動の充実が大切と考えるが、この点について各者どのような配慮がなされているか。

A /各者とも、作者の思いや制作の意図を伝える「作者の言葉」を掲載し、形や色彩などを言葉で伝えあうことで生徒のコミュニケーション能力の育成と言語活動の充実を図るよう配慮されている。

Q /美術科は免許外で指導している教員が多いが、その現状を踏まえて各者どのような配慮がされているか。

A /各者とも、クラスや生徒の状況に合わせた多様な授業ができるように授業構成の自由度がもてるようになっているので、どのような立場の教員でも学びがきちんと押さえられる誌面となっている。また、巻末の資料が充実していて、表現のための様々な技法や用具の使用法、美術史などが掲載されていたり、QRコードを活用して作品の解説や技法、音声ガイド、作品例などが掲載されたコンテンツにリンクできるなど、免許外教員にとっては使いやすい構成となっている。

Q /製本にあたり、図版や写真、書体、レイアウト等において各者の違いは何か。

A /各者とも、生徒作品や鑑賞作品の図版や写真が豊富かつ多様な構成でレイアウトされている。絵画作品などは本物の色合いに拘っていることがわかり、印刷技術の向上が伺える。また、題材名、主文はUD フォントを使用して見やすさが考慮されている。

開隆堂は、A4 ワイド版で作品を大きく美しく見せる工夫がされているとともに、全題材にQRコードが活用されている。また、美術1の巻頭に「学びの地図」、2・3に「まとめ」のページがあり、3年間を見通した学習過程を意識できるよう工夫されている。

光村図書は、版画等の鑑賞題材では和紙など風合いのある用紙を使用したり、「最後の晚餐」を鑑賞する題材では鑑賞図版の上から自由に書き込みできるトレーシングペーパーを綴じ込むなどの、鑑賞活動が深まるような工夫がみられる。また、巻末資料が大変充実していて表現や鑑賞において大いに参考となる。

日本文教出版は、A4 ワイド版で作品を大きく美しく見せる工夫がされているとともに、「美術2・3」が上巻・下巻に分冊されている。また、原寸大や拡大された写真が多く掲載されており、より実感的な作品を鑑賞するページでは厚手の用紙が使用されるなどの配慮が多く見られる。

Q /日本の伝統的な文化についての配慮がなされているか。

A /各者とも、題材や資料において、伝統工芸や伝統文化に関わる作品が

多く取り上げられている。北海道をはじめ、日本全国の伝統工芸・文化がくまなく紹介されるように配慮されている。

Q /主体的・対話的で深い学びへの対応にどのような工夫がなされているか。

A /各者とも、各題材の巻頭に「学びの目標」を示すことで、生徒が見通しをもって活動できるようになっている。また、「造形的な視点」「学習のポイント」「発想や構想」のアドバイスや活動の様子が掲載されており、それを基に生徒が考えを伝えあったり、友人と相談したりしながら協働して造形活動を進めるなど、対話を通して学びを深めることができるように工夫されている。

Q /表現活動、鑑賞活動の指導の共通事項が位置付けられているが、この点について各者どのような取扱いになっているか。

A /共通事項については、表現と鑑賞は相互の観点を図るように工夫されていて、各領域間で共通の育成する能力については共通事項として示されている。各者とも美術1では身近な具体物から、美術2・3では光や影を用いた活動から、形や色彩、材料などの性質やそれらがもたらす感情を理解する活動が適切に取り扱われている。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長/引き続き、美術の採択の審議に入る。

- 第2・3年生が上下巻に分かれており、発達の段階を踏まえた学習に配慮されている。全ての生徒が学習しやすいよう、色彩が鮮やかであり、資料が見やすいことから、日本文教出版が良いと考える。
- 日本文教出版が良いと考える。各題材の内容ごとに色で示すなど判読しやすい文字や配色にしたり、用具の安全な使い方などについて注意喚起するマークを示したりするなど、使用上の便宜が図られている。生徒が何をどのように学んでいくのかがわかりやすい紙面構成になっている。学習課題を設定し見通しをもたせるとともに、身の回りにあるものの形や色彩などの特徴を交流するなど、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習へ対応している。日常生活とのつながりとして、他方面で活躍している方々のメッセージが掲載されていたり、他教科の関連付け、地域の伝統文化とのつながりなどを取り上げ、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。

会 長／他の意見はないか。(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、美術は日本文教出版と決定することとしてよろしいか。(異議なし)

それでは、美術については、全会一致で日本文教出版の教科用図書を採択することと決定する。

【保健体育】

◆小委員長報告

委員長／保健体育小員会委員長、北見市立留辺蘂中学校長の徳増秀隆です。

保健体育小委員会は、4名の調査委員で、7月6日に開催された第1回調査委員会以降、「教科書編集趣意書」、道教委発行の「採択参考資料」等を参考資料としながら、観点に従って調査研究を行った。

最初に、東京書籍「新しい保健体育」について報告する。発行者の特徴として、「取扱内容」と「使用上の配慮等」の2点について報告する。「取扱内容」については、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応について、運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、資料を基に運動やスポーツ中における社会性を考え、心身や社会性の発達にどのような効果をもたらすかを話し合うなど、自分の考えを広げたり、深めたりする活動に取り組めるよう工夫されている。「使用上の配慮等」については、巻頭に「オリンピック・パラリンピック」や「共生」などを切り口とした口絵を掲載し、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。その他の観点における調査研究結果は報告書に記載のとおり。

次に、大日本図書「中学校保健体育」について報告する。発行者の特徴として、「取扱内容」と「使用上の配慮等」の2点について報告する。「取扱内容」については、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応について、健康な生活と疾病の予防の学習において、学習課題を設定し、資料を基に身近な大人に向けてがんに対する行動のアドバイスを発表し合うなど、自分の考えを広げたり深めたりする活動に取り組めるよう工夫されている。「使用上の配慮等」については、各章の扉に章のイメージや学習内容、小学校、中学校、高等学校の系統性を示し、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、大修館書店「最新中学校保健体育」について報告する。発行者の特徴として、「取扱内容」と「使用上の配慮等」の2点について報告する。「取扱内容」については、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応について、運動やスポーツの多様性の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、運動やスポーツへの多様なかかわり方について考え、中学校生活の中でできることを「する、見る、支える、知る」の視点で発表し合うなど、自分の考えを広げたり深めたりする活動に取り組めるよう工夫されている。「使用上の配慮等」については、1人1台端末を活用した学習活動として、「web 保体情報館」を掲載するなど、使用上の便宜が図

られている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、学研教育みらい「中学保健体育」について報告する。発行者の特徴として、「取扱内容」と「使用上の配慮等」の2点について報告する。「取扱内容」については、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応について、健康な生活と疾病の予防の学習において、学習課題を設定し、資料を基に自分に適した運動内容や運動量を考え、生活の中に運動を取り入れる工夫を考えるなど、自分の考えを広げたり深めたりする活動に取り組めるよう工夫されている。「使用上の配慮等」については、巻頭に教科書の使い方や学習の方法を掲載し、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。その他の観点における調査研究結果は、報告書にあるとおり。

以上で、保健体育小委員会の報告を終わる。

◆質疑応答

会長／保健体育の調査研究報告について質問等はないか。

Q /新学習指導要領では、運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養うことが求められているが、このことについて、各者、どのような配慮がなされているか。

A /各者とも、運動の継続の仕方、健康・安全の確保の仕方など、これまで学習した運動や健康に関わる科学的な知識や技能を活用し、自己や仲間の課題を追求することで、合理的な解決に向けて思考し判断できるよう配慮されている。また、発見した健康に関する課題については、これまでに習得した知識及び技能を活用して解決方法を考えるとともに、インターネットや書籍、実地調査やアンケート調査によって探求出来るよう工夫されている。さらに、自己や仲間の課題を、ディスカッション、ロールプレイング、ブレインストーミングなどを活用することで他者に伝える力を養い、仲間と共に学びを深められるよう配慮されている。

Q /今日的な教育課題への対応として、感染症の取り扱いについて、各者、どのような配慮がなされているか。

A /各社とも感染症の予防については、中学3年生の「健康な生活と病気の予防」において取り扱っており、インフルエンザ、風疹、結核、コレラ、ノロウイルス等に加えて性感染症を取り上げ、発生要因や感染経路、感染予防について理解を深める構成となっている。さらに、社会的な取り組みが個人の健康を支えていることに気付くことができるよう配慮されている。

Q /体力・運動能力の向上は子供たちにとって課題となっているが、このことについて、各者どのように配慮しているか。

A /各者とも、心身の発育・発達には個人差があり、性別や年齢、障がいの有無にかかわらず、運動することの必要性和楽しさについて学べるよう配慮されている。保健分野・体育分野全体を通して身に付けた資質・能力により、現在及び将来における健康に関する課題に対して、科学的な思考と正しい判断の下に行動選択を行い、実践できるよう工夫されている。巻末には、新体力テストの資料が掲載されており、全ての種目の実施方法や記録方法、注意点などをイラスト入りで詳しく取り扱われている。

Q /心肺蘇生法等の技能に関する内容等を充実するとなっているが、各者、どのように配慮がなされているか。

A /各者とも、応急手当の実際として、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）使用などの心肺蘇生法、包帯法や止血法としての直接圧迫法などを取り上げ、実習を通して応急手当ができるよう配慮されている。また、写真やイラストに加え、ウェブサイトから動画などの情報が得られるよう工夫がなされている。

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、保健体育の採択の審議に入る。

● 東京書籍が良いと考える。イラスト、写真、資料がバランスよく配置されており、生徒の学習意欲を高めている。巻頭に「オリンピック・パラリンピック」や「共生」などを切り口とした口絵を掲載し、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。

● 東京書籍が良いと考える。学習の流れが明確で、生徒が見通しをもって取り組むことができ、日常生活の中で自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考、判断し、他者に伝えるなどの学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。デジタルコンテンツが豊富であり、生徒の興味、関心を高めるような内容になっている。また、生徒を取り巻く防災や安全について多く取り上げており、これからの生活に役立つ内容が多い。

会 長／他の意見はないか。（なし）

これまでの審議の経過を踏まえて、保健体育は東京書籍と決定することとしてよろしいか。（異議なし）

それでは、保健体育については、全会一致で東京書籍の教科用図書を採択することと決定する。

【技術・家庭】

◆小委員長報告

委員長／技術・家庭小委員会委員長、遠軽町立南中学校長の飛澤節子です。

技術・家庭小委員会は6名の調査委員で、7月6日に開催された、第1回調査委員会以降、「教科書編集趣意書」、道教委発行の「採択参考資料」等を参考資料としながら、観点に従って調査研究を行ってきた。技術分野と家庭分野に分け、発行者の特徴として、取扱内容と使用上の配慮事項等の2点について報告する。

最初に、技術分野の東京書籍『新しい技術・家庭 技術分野～未来を創る Technology～』について報告する。取扱内容については、技術分野の目標が達成できるよう、「A材料と加工の技術」において、身の回りの製品の工夫を調べることを通して、材料と加工の技術と生活や社会、環境問題とのかかわりについて理解したり、利便性や機能性を追求した製作品に関する実習を通して、材料と加工の技術を工夫し創造したりする活動が取り上げられている。小学校のプログラミング教育は「体験」、中学校（技術分野）は「問題解決」である。「D情報の技術」において、インストール不要の共有フォルダ実行型、URL 接続型、ブラウザ実行型、計測・制御教材型などの例を掲載し、自分の学校環境に合った題材を選択できるようにしている。ゼロからプログラムを構築することは不可能に近いと、教科書に掲載されているプログラムを例に、自分の問題解決に合わせて、プログラム的一部分を変更することで、ベーシックな授業が実現できるよう工夫されている。主体的・対話的で深い学びにつながる場面として「活動」を数多く取り上げ、一連の学習過程の中に、主体的に調べたり、友達と協働して比較・検討したりするための発問を設けるなど、深い学びの実現のための工夫をしている。「問題解決例」において、生徒キャラクターを用いて対話的に設計要素などが検討できるように工夫している。使用上の配慮事項等については、各編の始めに、小学校の学習や他教科とのつながりを示し、各編の終わりに「未来への Technology」について考えを深める活動があるなど、生徒が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、教育図書『New 技術・家庭 技術分野～明日を創造する～』について報告する。取扱内容については、「A材料と加工の技術」において、身近な製品に関する技術の工夫について考えることを通して、材料と加工の技術と生活や社会、環境問題とのかかわりについて理解したり、生活上の不便さなどの問題を解決する製作品に関する実習を通して、材料と加工の技術を工夫し創造したりする活動が取り上げられている。「D情報の技術」において、「やってみよう」では技術について調べさせたり、考えさせる活動を通して、「プログラムを学ぼう！」の特集ページを設けて、身近にあるプログラムを紹介しながら、生徒が興味をもって学習を進めることができるよう配慮されている。プログラミングの実習題材でも、作業の行程を細分化して示すことで、生徒が作業の手順を追いながらプログラミングの理論が理解でき、無理なく学習が進められるよう配慮されている。主体的で対話的な学びができるよう、2章のまとめでは、設計・計画のまとめをグループで発表し合うことで、対話的な活動を通じて自らの設計をふり返り、深い学びを実現できるように配慮されている。使用上の配慮事項等については、各編の始めに、技術の発展

例を取り上げる「学習の扉」を示し、各編の終わりに環境や共生などの視点で考える「社会の発展と技術」を掲載するなど、生徒が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。また、技能に関する資料を別冊にするなど、生徒の学習意欲が高まるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、開隆堂『技術・家庭 技術分野～テクノロジーに希望をのせて～』について報告する。取扱内容については、「A材料と加工の技術」において、主な材料や加工についての科学的な原理や法則の理解、材料の製造方法や成形方法を調べることを通して、材料と加工の技術と生活や社会との関わりについて理解したり、持続可能な社会を意識した製作実習を通して、材料と加工の技術を工夫し創造したりする活動が取り上げられている。「主体的な学び」に配慮し、各小項目の冒頭に設けられた「導入課題」を通して生徒が授業へ積極的に取り組むようにしています。また、適所に配置している「実験」や「課題」などの活動を通して、他者との関わり合いをもちながら、技術の理解を深めることができる。「D情報の技術」において、見通しをもってプログラミングに取り組むことができるよう、制作の目的や問題解決のための視点、プログラムの例などを掲載している。また、社会とのつながりの視点も掲載しているため、プログラミングを生活や社会の中で生かそうとする力が身に付くよう配慮されている。巻末資料では、基本操作についてフォローし、QRコンテンツでプログラムの解説などを掲載し、手厚くフォローしているため、無理なく安心してプログラミングに取り組むことができるよう工夫されている。実践的・体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようとする意欲を引き出し、自ら問題を見出し、課題を設定して解決を図る力を身につけることができるように、よく工夫されている。使用上の配慮事項等については、各編の始めに、各内容に関する「技術の歴史」年表を示し、各編の終わりに学習を振り返り、学びを深めることができる「学習のまとめ」を掲載するなど、生徒が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

続いて、家庭分野について報告する。まず、東京書籍『新しい技術・家庭 家庭分野～自立と共生を目指して～』について報告する。取扱内容については、「B衣食住の生活」において、知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、衣食住の生活についての課題を解決する力を養うよう、バランスのよい献立を考える活動や、資源や環境に配慮した手ぬぐいや幼児服を再利用した小物などを製作する活動を取り上げている。主体的な学びとして、活動例や生活の課題と実践など、さまざまな場面で思考ツールを例示し、思考ツールを活用することで、対話を助けて協働を促し、深い学びにつながるよう工夫している。巻末に切り取りのできる「防災・減災手帳」を掲載し、危機対応能力を高めるような工夫がされている。使用上の配慮事項等については、幼児の使う小物や食品の概量などの実物大写真を掲載している。1人1台端末を活用した学習活動として、目次や領域の最初のページにQRコードを「Dマーク」として掲載するなど、動画やシミュレーションなどを活用した学習ができ、生徒の理解を深めることができ、家庭学習にも使える。そ

の他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、教育図書『New 技術・家庭 家庭分野～くらしを創造する～』について報告する。取扱内容については、「B衣食住の生活」において、知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、衣食住の生活についての課題を解決する力を養うよう、中学生の1日分の献立を考える活動や、資源や環境に配慮したリメイクの例やマスクやペットボトル入れなどを製作する活動が取り上げられている。「話し合ってみよう」「調べてみよう」など、実践的・体験的な活動を通して学ぶことができるワークが多数掲載され、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されている。衣食住生活それぞれの領域ごとに防災学習ができるように取り上げ、危機対応能力を高めるような工夫がされている。使用上の配慮事項等については、新生児の手形や、身近な食品とその概量などの実物大写真を掲載しています。また、1人1台端末を活用した学習活動として、調理動画などのコンテンツを参照できるQRコードが掲載され、基礎的な知識・技能の習得を補えるよう配慮されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

次に、開隆堂『技術・家庭 家庭分野～生活の土台 自立と共生～』について報告する。取扱内容については、「B衣食住の生活」において、知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、衣食住の生活についての課題を解決する力を養うよう、栄養バランスを市販の弁当や1日分の献立作成で考えたりする活動や、資源や環境に配慮し、リメイクした小物を製作する活動が取り上げられている。生徒同士で対話をしたり意見を交換したりできるような学習活動を多数取り入れており、生徒同士や家族・身近な人たちとの会話なども通して考えを明確にするなど、生徒自らの考えを広げて深められるような仕組みになっている。また観察や実習の際の計画を立てる場面やレポート作成、考察・発表等の場面が学習過程の各所に設定され、主体的・対話的・深い学びができるしくみになっている。巻末には「災害からいのちと生活を守るために」を取り上げ、災害の備えを考えさせ、危機対応能力を高めるような工夫がされている。使用上の配慮事項等については、子どもの手形・足形や食品と摂取量のめやすがわかる実物大写真を掲載している。1人1台端末を活用した学習活動として、実習・製作の頁にQRコードを記載することによって生徒がより主体的に学習に取り組めるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。

最後に、技術・家庭小委員会における協議の概要について。教科書が大判化し、それに伴いページ数も増え、内容が盛りだくさんになっている。各者、技術・家庭両分野ともに、現代社会の課題であるSDGsやSociety5.0、エンシカル消費、防災、家族や民族の多様性、性の多様性を取り上げるとともに、仕事と家庭を両立させる「ワーク・ライフ・バランス」や「子どもの権利条約」など、他教科との教科横断的学習内容が増えており、どの教材を選択するかが重要になる。また、各者とも、教科書そのものが資料集の役割を果たしたり、ノート代わりに書き込めるように工夫されたりしている。オホーツク管内には中学校が49校ある、技術・家庭の免許所有率は概算で30%である。免許外の教員が担当するケースが多いが、今回の改定で、QRコードを採

用したことで、実験や実習の技術や手順が説明しやすいものとなっているし、生徒が実習中でも繰り返し視聴でき、家庭で実践する際の参考資料としても大いに役に立つ。各領域の最後に、学習の振り返りのページがあり、3 観点での自己評価や、単元テストができるように配慮されているという特徴がある。

以上で、技術・家庭小委員会の報告を終わる。

◆質疑応答

会 長／技術・家庭の調査研究報告について質問等はないか。

Q /生徒が興味をもって学習することができるよう、地域の実態などを生かした指導をすることが求められているが、北海道の素材を活用している資料について、各者、どのように取り扱っているか。

A /各者とも技術分野の「B 生物育成の技術」と家庭分野の「B 衣食住の生活」の食生活において、農業王国北海道にふさわしく、農産物や酪農、水産物、食文化をイラストや写真で掲載している。また、ICTやAIなどの最新のテクノロジーを利用したスマート農業や、北海道で起きた自然災害にもふれており、身近な話題で興味をもちやすい。

Q /コンピュータや情報通信ネットワークの活用などのICT教育が適切に行えるように、技術分野でどのように配慮されているか。家庭分野での工夫は何か。

A /技術分野のプログラミングについて、各者とも大幅にページを増やし、無理なくプログラミングの操作ができるように、アプリやプログラミングの実習題材を多数掲載し、それぞれ工夫されている。

家庭分野では、各者とも、QRコードを記載し、基礎技能動画を充実させ、技能の習得に役立つように工夫されており、実習や家庭学習にも活用できる。また、免許外の教員にとって、教材研究や準備の時間短縮につながるるとともに、実習場面で大いに活用できる。

Q /主体的・対話的で深い学びが実現できるように、どのように工夫されているか。

A /技術分野・家庭分野ともに、実践的・体験的活動を通して、生活をよりよくしようとする意欲を引き出し、自ら問題を見出し、課題を設定し、話し合いの活動や思考する活動、意見を述べる活動など様々な言語活動ができるように設定され、主体的・対話的・深い学びができるしくみになっている。

Q /2030年までの実施を目指すSDGs（持続可能な開発目標）を、どのよ

うに取り扱っているか。

- A / 技術分野・家庭分野ともに環境や共生を大切にする実践的態度が身につくように、SDGs や Society5.0 について取り上げ、自然環境の維持や、持続可能な社会の構築に向けて責任のある行動がとれる生活者の育成を目指すとともに、技術の進歩で健康な生活を送ることに役立っていることが考えられるように配慮されている。

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、技術・家庭の技術分野の採択の審議に入る。

- 学習が系統的に進められるよう基礎、基本から応用発展へと段階的に構成されているほか作品例も理解しやすいことから、開隆堂出版が良いと思う。

会 長／他の意見はないか。(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、技術・家庭は開隆堂出版と決定することとしてよろしいか。(異議なし)

それでは、技術・家庭については、全会一致で開隆堂出版の教科用図書を採択することと決定する。

会 長／引き続き、技術・家庭の家庭分野の採択の審議に入る。

- 家庭生活、食生活、消費生活等について、生徒の学習意欲を高める工夫がなされており、全体としてバランスが良い内容となっていることから、開隆堂出版が良いと考える。
- 吹き出しのコメント、イラストなどが見やすく、生徒の興味・関心を高める配色、レイアウトであることから、開隆堂が良いと考える。

会 長／他の意見はないか。(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、技術・家庭の家庭分野は開隆堂出版と決定することとしてよろしいか。(異議なし)

それでは、技術・家庭の家庭分野については、全会一致で開隆堂出版の教科用図書を採択することと決定する。

【外国語（英語）】

◆小委員長報告

委員長／外国語小委員会委員長、清里町立清里中学校長の畠山稔です。

外国語小委員会は、4名の調査委員で、7月6日に開催されました、第1回調査委員会以降、「教科書編集趣意書」、道教委発行の「採択参考

資料」等を参考資料としながら、観点に従って調査研究を行った。

新学習指導要領への移行、そして小学校外国語が教科として位置づけられたのに伴い、どの者も内容や構成に大きな見直しが行われていた。各者共通した特徴として3点を挙げる。1つ目は、目標・課題を示し、身につけるべき力を明らかにして、主体的な学びを促していること。2つ目は、小学校外国語との連携を意図したつくりになっていること。3つ目は、一人一台端末を活用した学習活動を想定し、QRコードを掲載していること。では、各者ごとに、その特徴を報告する。

最初に、東京書籍 New Horizon について報告する。単元における本文が、短めの説明文と対話文に続き、まとまった分量の本文、という3部構成になっている。まとまりのある本文の学習においては、3段階で読み取る力をつける工夫がされており、①概要をつかむ、②詳細な内容をつかむ、③その内容についての自己表現という流れになっている。また、各学年数か所に「学び方コーナー」を設け、辞書の使い方や単語の覚え方、音読の仕方など、自学を促す工夫がされている。使用上の配慮では、小学校外国語で学んだ単語については、巻末に示すだけでなく、初出のページ下に、示す配慮がされている。その他の観点における調査研究結果は、報告書にある通り。

次に、開隆堂 Sunshine について報告する。各単元の初めに「Scenes」として、どの学習者でも習得すべき最低限の到達目標となる対話形式の基本文例をマンガ付きで掲載し、小学校での場面シラバスで学んできたプロセスを、中学校での文法シラバスにつなげており、小学校での学びとのギャップを感じにくい工夫がされている。単元の内容構成は、①場面で新しい表現を学習、②本文の読み取り、③本文内容を再現する、④学んだ表現で自己表現する、という順になっている。使用上の配慮では、巻末に動作を示すカードを入れ、基本動詞をアウトプットにつなげる活動がしやすくなっている。その他の観点における調査研究結果は、報告書にある通り。

次に、三省堂 New Crown について報告する。単元における本文が、短めの文と、まとまった分量の文に分かれている。まとまった分量の本文の学習では、3段階で読み取る力をつける工夫がされており、①読む前に興味・関心を促す、②概要・要点をとらえる、③その内容についての自己表現、という流れになっている。使用上の配慮では、巻末に「会話を進める表現」を掲載し、会話をつないだり深めたりする方法を示している他、同じく巻末の、「いろいろな単語」では場面やジャンル別によく使われる単語を示すなど、生徒が自己表現の参考にしやすい工夫がされている。また、小学校外国語で学んだ単語については、初出のページ下に示す配慮がされている。その他の観点における調査研究結果は、報告書にある通り。

次に、教育出版 One World について報告する。単元の内容構成は、①3つのパートに分け本文と文法表現を学び、②本文の振り返り、③自己表現活動、④文法事項を整理するという、流れになっている。また、

「Tips」という学習の仕方のヒントを紹介したページがあり、生徒が進度に応じてそれぞれの技能を高めるための参考にできるよう工夫がされている。使用上の配慮では、マスキングシートがついており、生徒が自宅で復習する工夫がされています。また、即興のチャットやスピーチで使う表現例を掲載しており、帯学習で即興性を培う活動がしやすくなっている。その他の観点における調査研究結果は、報告書にある通り。

次に、光村図書 Here We Go! について報告する。単元の内容構成は、①話題の大筋をつかむ、②3つのパートに分け本文と文法表現を学び、③4技能のうち重点化をして単元の目標となる言語活動に取り組む、といった流れになっている。また巻頭に、「英語の学び方ガイド」を設け、学年に応じた学習への不安に応える工夫がされている。使用上の配慮では、巻末に「Let's Talk」という帯教材用のとじ込みを掲載し、即興性を養う活動に使えるようにしている。さらに、「Active Words」で場面やジャンル別によく使われる語句を掲載し、生徒が自己表現の参考にしやすい工夫がされている。その他の観点における調査研究結果は、報告書にある通り。

次に、啓林館 Blue Sky について、報告する。単元の内容構成は、①3つのパートに分け短い本文と文法表現を学び、②単元のテーマに沿った長文を読み取り、③自己表現活動をする、という流れになっている。また、自己表現活動では、「書く」活動から「話す」活動へとつなげているのが特徴。さらに、各学年6～8か所「Let's Talk」のページを設け、身近な場面に適応したやり取りを学習する工夫がされている。使用上の配慮では、巻末の「Word Box」で、各単元のテーマに沿ったジャンルの語句を掲載し、言語活動の参考にしやすい工夫がされている。その他の観点における調査研究結果は、報告書にある通り。

さらに、小委員会で協議した内容を、2つの視点から、報告する。1つ目は、小学校外国語との連携に関わる配慮である。小学校でも学習指導要領改訂により、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の4技能5領域を育成しますが、中でも「聞くこと」「話すこと」の活動を中心に、場面設定での言語活動を行うことで、コミュニケーション能力の素地を培っている。小学校において音声中心で学んできたことを、文字につなげていく配慮が、全ての者で見られ、綴りと発音の関係を音声学の視点から丁寧に説明し、従前の教科書よりも多くのページを割いている。また、全ての者が、夏休み前くらいの学習について、小学校で学んできた表現を復習的に学びなおし、文法的な理解に落とし込んでいく構成になっており、小学校外国語とのスムーズなつながりが意図されている。2つ目は、主体的・対話的で深い学びにつなげる視点である。こちらも全ての者に共通するが、巻頭で教科書を使ってどのように学んでいくか、教科書の構成を説明し、個々の生徒が見通しをもって学びを進める配慮がされている。さらに、「Can-Do リスト」も全者、巻末に設けられ、身につけるべき力を示すとともに、各自がチェックしながら学べるよう工夫がされている。また、現行の教科書ではパターンをまねる活

動が多かったが、どの者も、考え・表現する活動を多く盛り込むとともに、協働的に言語活動を進める活動が中心になっている。

以上で、外国語小委員会の報告を終わる。

◆質疑応答

会長／外国語の調査研究報告について質問等はないか。

Q /小中連携に関わり、小学校外国語科で学んだ内容について引き継ぐために、各者の特徴的なものはなにか。

A /先程の説明では、全者に共通した特徴を示した。更に2つの視点で特徴をお伝えする。1つ目、単語の扱いである。今回の学習指導要領の改訂で、取り扱う単語は、小学校で600～800語、中学校ではそれに加え、1600～1800語程度とされ、中学校卒業までに下限でも2200語程度の単語を取り扱うこととなる。現行学習指導要領においては中学校で1200語程度の単語を扱うとされており、これまでより2倍近くの単語を使って学ぶことになる小学校で学んだ単語の扱いについて注目した。東京書籍・開隆堂・三省堂・教育出版・光村図書は、巻末のリストにおいて小学校で学んだ単語がわかるように示してある。その中でも、東京書籍・三省堂は、小学校ですでに学んだ単語については、中学校での初出のページ下に記載する配慮をしている。啓林館は、小学校で学んだ単語を示していないが、小学校で学んだ単語・中学校から学ぶ単語にかかわらず、中学校からあらためて初出の扱いをする方法をとっているのが特徴である。2つ目、小学校での場面シラバスと中学校での文法シラバスの関係である。小学校と中学校の外国語の学習方法で、大きく異なる部分だが、開隆堂は単元の文法表現を場面シラバスにより提示する方法をとっているのが特徴である。

Q /北海道の話題など、身近な題材に興味関心を持ち、英語を使って自分を表現したり、理解するために、各者どのような配慮がされているか。

A /北海道の記述については、各者とも日本の文化を伝えるために色々な題材を使っているが、教育出版が1学年で旭山動物園を、3学年で釧路湿原のワシを単元のテーマとしてとりあげ、扱いが多くなっている。なお、協議の中では、身近な題材を提示して興味関心を促すことよりも、SDGsに関わる題材をとりあげて地球規模の視点で興味関心を促す意図を、どの者からも感じるということもあげられていた。

Q /新学習指導要領では、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能のうち、「話す」技能が〔やり取り〕と〔発表〕に分けられ、5領域にわたるコミュニケーション能力を育成することが求められようになった。各者どのような特徴があり、どのような配慮がされているか。

- A /まず、どの者も、5領域のうちどの力を育成する活動なのか、わかりやすいマークなどを使い明示している特徴がある。5つの領域のうち、活動数が多く設けられているのは、東京書籍が「書くこと」、開隆堂・三省堂が「話すこと〔やり取り〕」、教育出版が「読むこと」、光村図書が「聞くこと」、啓林館はいずれの領域も同じ程度、といった特徴がある。また、東京書籍・開隆堂・三省堂は、5領域の活動を、徐々にステップを踏んで統合的に学ぶつくりとなっており、知識・技能を思考力・判断力・表現力につなげる工夫がされている。

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、外国語の採択の審議に入る。

- 各者とも、目標を達成できるよう、学習活動で構成されている内容だと思うが、中でも開隆堂出版は、全学年をとおして段階的に系統的に目標に向かって学習に取り組むことができ、全体を通してバランスが良い。また、児童の興味・関心が持てる題材により、英語を使って自分の考えを表現し、理解しようとする意欲を高める工夫がされている。また、ユニバーサルデザインの採用や小学校からの接続が考慮されていることから開隆堂出版が良いのではないかと思う。
- 小学校英語は開隆堂出版を使ってスタートしたので、これまでの前提を考慮して開隆堂でつないでいくのが良いのではないか。また、長所のひとつとして、単語のチェックボックスが設けられており、単語が覚えやすいよう工夫され細かな配慮がされていることから、開隆堂出版が良いと考える。

会 長／他の意見はないか。(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、外国語は開隆堂出版と決定することとしてよろしいか。(異議なし)

それでは、外国語については、全会一致で開隆堂出版の教科用図書を採択することと決定する。

【道徳（道徳）】

◆小委員長報告

委員長／道徳小委員会委員長の北見市立北中学校長の緒方隆人です。

道徳小委員会は、6名の調査委員、文部科学省検定済教科書7社について調査研究を行った。初めに、東京書籍「新訂 新しい道徳」について報告する。「取扱内容」について、生命の尊厳においては、例えば、第2学年において、命の有限性、連続性、偶然性のそれぞれの視点から、友達との意見交換を通して、「いのちの大切さ」とはどのようなものかを考える活動を取り上げている。内容の排列・構成については、言語活動については、話し合い

の手順を示す「話し合いの手引き」を配置し、多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力を育むことができるように工夫されている。問題解決的な学習については、道徳的な問題の解決に向けて話し合うことができる教材を配置し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。体験的な学習については、役割演技による学習を示す「アクション」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から、道徳的価値の意義などについて考え深められるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。全体的な特徴として、1点目は、教科書の巻頭に、「話し合いの流れ」が記載されており、わずかな教材を取り扱い、道徳の授業の流れを示している。2点目は、各教材の題材名の下に、関連して扱える教科名が示されていて、生徒が横断的な考えを引き出せるようになっている。3点目は、教科書の巻末に、「心情円」がついており、自分やグループの感じ方や考え方を示す教材用具を活用できるようになっている。

次に教育出版「中学道徳 とびだそう未来へ」について報告する。「取扱内容」について、生命の尊厳においては、例えば、第3学年において、身近な動物をはじめとした生きとし生けるものの生命の尊さ、限りある命の重さと向き合っていくためには、どのようなことが大切かを考える活動を取り上げている。内容の排列・構成については、言語活動については、自分の考えをもとに話し合う「学びの道しるべ」を配置し、多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力を育むことができるように工夫されている。問題解決的な学習については、異なる立場からの考えを取り上げた教材を配置し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。体験的な学習については、役割演技による学習を示した「やってみよう」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から、道徳的価値の意義などについて考え深められるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。全体的な特徴として、1点目は、学びを深めるために、「生命の尊さ」「いじめ」について、目次の教材名に網掛けをして、わかりやすいように表記している。2点目は、教材の始めに「主体的な学び」に導く発問、教材の最後に「学びの道しるべ」で3つの定型発問、という構成になっている。3点目は、教科書の巻末に毎時間の記録と学期ごとの振り返る欄があり、生徒が自らの成長を実感しやすいように工夫されている。

次に、光村図書「道徳 きみがいちばんひかるとき」について報告する。「取扱内容」について、生命の尊厳においては、例えば、第2学年において、命や生きることとはどのようなものか、生きていることの尊さについて触れ、生きることが当たり前ではないと感じるのは、どのようなときかを考える活動を取り上げている。内容の排列・構成については、言語活動については、多面的・多角的な見方や考え方による話し合いの視点を示す「見方を変えて」を配置し、多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力を育むことができるように工夫されている。問題解決的な学習については、道徳的な問題を解決するためにどうすればよいかを考える発問を示す

教材を配置し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。体験的な学習については、体験的な学習を示す「人と人との関係づくり」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から、道徳的価値の意義などについて考え深められるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。全体的な特徴として、1点目は、35時間を3つのシーズンに分け、4月からのシーズン1では、いじめ問題について2時間取り扱っている。2点目は、「考えよう」という発問以外に、「見方を変えて」という欄を設け、いろいろな視点で考える活動が行えるようになっている。3点目は、目次の教材名の下に、シーズンごとにテーマ(目標)が記載され、多面的・多角的に考えることができるようになっている。

次に日本文教出版「中学道徳 あすを生きる」について報告する。「取扱内容」について、生命の尊厳においては、例えば、第1学年において、生命の大切さについて知り、自分の周りにおける支え合う生命のことをふまえて、人とつながって生きている自分とは、どのような存在であるかを考える活動を取り上げている。内容の列・構成については、言語活動については、自分や友達の考えを記入する欄を配置し、多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力を育むことができるように工夫されている。問題解決的な学習については、問題をつかむ活動や考える活動を促す「学習の進め方」を配置し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。体験的な学習については、体験的な学習の流れを示した「学習の進め方」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から、道徳的価値の意義などについて考え深められるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。全体的な特徴として、1点目は、別冊教科書「道徳ノート」があり、メモをとったり、考え議論したことを書くことができるように工夫されている。2点目は、教材の最後に、みんなで考え議論する「考えよう」と、これからの自分にどう生かすか「自分に+1」の2つが構成されている。3点目は、3種類のコラム「プラットフォーム」「参考」「私の生き方」を取り上げ、教材から得られる学びを深めるように工夫されている。

次に学研教育みらい「新・中学校の道徳 明日への扉」について報告する。「取扱内容」について、生命の尊厳においては、例えば、第2学年において、生命誕生についての話や写真により、生命が次世代へ受け継がれ、渡されていることについて考える活動を取り上げたり、無理に生きようとさせることの是非を考える活動を取り上げたりしている。内容の列・構成については、言語活動については、考えを深めるための話し合いの視点を示す「話し合おう」を配置し、多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力を育むことができるように工夫されている。問題解決的な学習については、道徳的な問題の解決に向けた視点を示す「見つけよう」を配置し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。体験的な学習については、役割演技による学習を示す「やってみよう」を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から、道徳的価値の意義などにつ

いて考え深められるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。全体的な特徴として、1点目は、4つのステップ「見つけよう」「話し合おう」「考えよう」「生き方をつなげよう」により、学びの流れの手立てがなされています。2点目は、主題名に内容項目の表示が記載されており、特に「いのち」「情報モラル」が特別に表示されている。3点目は、学期ごとの授業を振り返る「学びの記録」により、これからの生活に生かすことを記録することができるようになっている。

次に、廣済堂あかつき「中学生の道徳」について報告する。「取扱内容」について、生命の尊厳においては、例えば、第3学年において、人の生死に対して様々な考え方があの中で、命をつないでいくことや命をつなぐ行為についてふれ、生命の尊厳を守るためには、どのようなことが大切かを考える活動を取り上げている。内容の排列・構成については、言語活動については、感じたことや考えたことを記入する欄を配置し、多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力を育むことができるように工夫されている。問題解決的な学習については、道徳的な問題の解決に向けて話し合うことができる教材を配置し、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。体験的な学習については、役割演技による学習に取り組むことができる教材を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から、道徳的価値の意義などについて、考え深められるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。全体的な特徴として、1点目は、別冊教科書があり、内容項目をさらに深める教材や毎時間の記録を記載できるようになっている。2点目は、各教材の最後に「考える・話し合う」の中に、深く考えられるように、多面的・多角的な思考を重視した数多くの発問がある。2点目は、読み物教材がほぼ全てであり、内容一覧表から「生命」「いじめ」「情報」の内容項目を明確に示している。

最後に日本教科書「道徳 中学校」について報告する。「取扱内容」について、生命の尊厳においては、例えば、第1学年において、祖先から子孫へ受け渡していく生命の連続性について、自分の生命や、他の人の生命などから、自分はどのようなことを感じるかを考える活動を取り上げている。内容の排列・構成については、言語活動については、「考え、話し合ってみよう、そして、深めよう」を配置し、多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力を育むことができるように工夫されている。問題解決的な学習についても、「考え、話し合ってみよう、そして、深めよう」の配置により、よりよく生きていくための資質・能力が養われるように工夫されている。体験的な学習については、道徳的行為に関する体験的な学習を用いた教材を配置し、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から、道徳的価値の意義などについて考え深められるように工夫されている。その他の観点における調査研究結果は、報告書に記載のとおり。全体的な特徴として、1点目は、教科書の最初に心の成長を目指して、「学校」「家庭」「地域社会」の一員として自分の考えを広げ深めるように工夫されている。2点目は、教材の最後の発問の欄が文字ポイントが大きくなり、教師と生徒が共通して一

目でわかるように工夫されている。3点目は、教科書の巻末に、1年間の道徳の時間の振り返りと、1年間の心の成長を振り返る書き込み欄がある。

以上で、道徳小委員会の報告を終わる。

◆質疑応答

会長／道徳の調査研究報告について質問等はないか。

Q / 道徳科となり2年が経つ。その2年前の教科書から大きく変わった点はあるか。

A / 教科書の全体的な構成などが大きく変わった点はないが、教材の変更数は、35教材の中で、学年平均7~9教材変わった教科書会社は2社、光村図書、東京書籍である。5~7教材変わった教科書会社は2社、学研教育みらい、日本文教出版である。0~1教材変わった教科書会社は3社、あかつき、教育出版、日本教科書である。

ページ数の増減では、ページ数が増えた教科書会社は3社、東京書籍、学研教育みらい、教育出版である。割合は2%から8%の間である。平均は約5%となっている。逆にページが減った教科書会社は2社、あかつき、光村図書である。割合は、6%から18%の間で、平均約11%である。

Q / 道徳の内容項目に郷土愛などがあるが、北海道に関わる自然・動物・偉人などは各社どのくらいあるか。またアイヌ文化に関わる題材を扱っている教科書会社はどのようになっているか。

A / 道徳に関わる教材は、読み物教材、コラム的に紹介している教材と大きく2つに分けられる。11教材扱っている教科書会社は、教育出版である。8教材扱っている教科書会社は、光村図書、東京書籍である。7教材扱っている教科書会社は、あかつき、学研教育みらいである。3教材扱っている教科書会社は、日本教科書、日本文教出版である。その中で、アイヌ文化に関わる教科書を扱っているのは7社のうち3社、光村図書、東京書籍、教育出版、である。各学年ではなく、全学年の中で1つの教材を扱っている。

Q / いじめ問題についてどのように取り扱っているのか。特に、SNSなど情報モラルについて、どのような教材が取り扱っているのか。

A / いじめの問題に関わる内容項目は、主に22項目の中で、主として人と関わりに関する事、主として集団や社会との関わりに関する事で総合的に取り扱われている。扱われている教材は、少ない学年で12ページ、多い学年で65ページ取り扱っている。特に、情報モラルについては、SNS上で具体的な友達の会話などを扱い、友達との関係をよく

くするために、どのようなことを配慮する必要があるかを考える活動や、言葉の異なる意見を尊重したり、本当の友達を育てるために、どのようなことが大切かを考えさせる活動を取り上げている。

Q / 道徳の評価のために各者どのように工夫されているのか。

A / 道徳の評価は、生徒の学習状況や道徳性に係る成長を継続的に把握するために、毎時間の自分の振り返りを学習プリントや分冊を活用して指導に当たらなければならない。教科書として毎時間の振り返りや学びの記録を記入できる教科書会社は、4社ある。学期ごとに記録できる教科書会社は、3社ある。4段階または5段階の自己評価を取り扱って工夫してる教科書会社は、5社ある。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長／引き続き、道徳の採択の審議に入る。

- 現在の教科書を使用してまだ2年目であり、教育現場としては、教科書会社を変更するのは適切ではない。教材については、光村図書は変更が多いが全般的には今までの流れを尊重して光村図書がよいのではないか。
- 各者取り扱い内容には工夫や使用上の便宜が図られており大きな差はないが、光村図書は教材ごとに主体的に取り組む工夫が記されていて現在も使用していることから適しているのではないか。

会 長／他の意見はないか。(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、道徳は光村図書と決定することとしてよろしいか。(異議なし)

それでは、道徳については、全会一致で光村図書の教科用図書を採択することと決定する。

【特別支援（特別支援）】

◆小委員長報告

委員長／特別支援小委員会委員長、湧別町立湧別小学校長の秋山康則です。小委員会3名の調査委員で特別支援学級用一般図書10冊について調査研究を行った。

右側にA、B、Cで標記しています「発達の段階」について説明する。標記は、障がいの程度及び発達段階を表したものである。Aは、「話し言葉はもたないが、物事への興味や関心が出始め、簡単な物の弁別が可能な段階にあるもの」、Bは、「話し言葉をもち、文字の読み書きに興味を

もち始め、物事の簡単な因果関係が分かる段階にあるもの」、Cは、「簡単な読み書きは可能であるが、学年相応の文部科学省検定教科書や文部科学省著作教科書では学習が困難な段階にあるもの」を示している。なお、今回の報告ではBを対象とする一般図書はない。

はじめに、国語2冊から報告する。

「木村裕一 しかけ絵本 (12) げんきにごあいさつ」

主人公が様々な動物たちと挨拶を繰り返すことにより、自ら挨拶しようとする態度が身に付くよう構成されている。仕掛けの扉を開けると、挨拶の文字が太字で書かれており、どのような時に使い、どのように受け答えをするのかが分かりやすいよう配慮されている。明るい色彩で描かれた絵や、扉の仕掛けを開閉することで、興味を引きつけられるよう工夫されている。

「たいせつなこと」

日常的に使用する物や風景などについて、大切なことは何かを考えながら読み進めるよう構成されている。「でも たいせつなのは」など、決まった言い回しを繰り返すことで、物語の展開に見通しがもてるよう配慮されている。文字は文節ごとに分けて書かれたり、挿絵の中に取り込まれたりするなど、読みやすいよう工夫されている。

次に、社会1冊について報告する。

「こどもきせつのぎょうじ絵じてん 第2版小型版」

年中行事や記念日の由来と歴史などを豊富な挿絵と簡単な説明文で分かりやすく学べるよう構成されている。季節の行事の過ごし方等について理解を深め、生活単元学習の行事に関わる単元の学習にも活用できるよう配慮されている。挿絵は色彩豊かに描かれ、説明文は平仮名で平易な表現で書かれており、分かりやすいよう工夫されている。

次に、算数・数学1冊について報告する。

「ブルーナの絵本 まる、しかく、さんかく」

時計や窓などの絵から円や三角形、四角形を見つけることを通して、身の回りのものの形に関心をもち、形の性質に気付く力を養えるよう構成されている。親しみやすい絵を豊富に掲載しており、楽しみながら図形を見つけることができるよう配慮されている。絵はシンプルで視覚的に分かりやすく描かれており、主体的に学習を進められるよう工夫されている。

次に、理科1冊について報告する。

「フレーベル館の図鑑ナチュラ ふしぎをためす図鑑 (1) かがくあそび」遊び方が分かる「かがくあそび」、実験を紹介する。

「もっとやってみよう」、楽しい科学遊びを紹介する「とくしゅう」の3種類のページで構成されている。身近な材料を活用し、体験的に自然現象についての基本的な理解を図ることができるよう配慮されている。遊び方や実験の方法がイラストや写真、文章で説明されており、子どもが分かりやすいよう工夫されている。

次に、音楽1冊について報告する。

「やさしいこどものうたとあそび」

生活あそび、月ごとのこどものうた、えかきうた、わらべうたなど幅広いジャンルの曲で構成されている。馴染み深い曲や生活に結び付いた歌、遊びながら歌える曲などが掲載されており、楽しく身体で表現したり歌ったりすることができよう配慮されている。全曲に楽譜が記載されており、教師が伴奏しやすいよう工夫されている。

次に、図画工作・美術1冊について報告する。

「かおノート」

様々なものに目や口、鼻などを自由に貼ったり描いたりして顔を作ることができ、作品の楽しさを感じ取ることができるよう構成されている。ペンで描くことやシールで貼ることができるなど、発達の段階に応じて活用できるよう配慮されている。目や口などのシールがあり、想像力がかき立てられ、楽しみながら主体的に取り組めるよう工夫されている。

次に、体育・保健体育1冊について報告する。

「運動が得意になる43の基本レッスン イラスト版体育のコツ」

短・長距離走、なわ跳びなど6種目を取り上げ、基本的な技能を身に付けられるよう1つの練習項目が見開き2ページで構成されている。各種目では基本から発展的な動きまでを掲載しており、発達の段階に応じて指導できるよう配慮されている。動きのポイントを示す分かりやすいイラストが豊富に描かれており、主体的に取り組めるよう工夫されている。

次に、職業・家庭、技術・家庭、家庭1冊について報告する。

「つくってたべよう！ お料理マジック2」、「くだものあめ」や「てづくりアイス」など22種類の料理の作り方を取り上げ、一つの料理を2～4ページで学習できるよう構成されている。調理の手順や出来上がりがカラー写真で豊富に掲載されているなど、理解が深まるよう配慮されている。工程が少なく短時間でできるレシピで、子どもが分かりやすいよう工夫されている。

最後に、外国語・外国語活動1冊について報告する。

「CD付き英語カード あいさつと話しことば編」

子どもがイメージしやすいイラストに英文が吹き出しで書かれており、裏面に日本語訳が掲載されている。「Hello」など、身近な会話表現を収録しており、子どもが興味・関心をもてるよう配慮されている。お手本の発音や、英語の歌などを収録したCDが付いており、楽しく英語の発音に親しむことができるよう工夫されている。

その他の観点における調査研究結果は、報告書の記載の通り。以上で10冊すべての報告を終わる。

◆質疑応答

会長／特別支援の調査研究報告について質問等はないか。

Q /特別支援学校では、これらの教科書をどのように使用し、子ども達の学習を行っているのか。

A /知的障がいの特別支援学校では、ほとんどの児童生徒が一般図書を使用して学習を行っている。指導に当たっては、担当する教諭が子どもの実態に応じて、一般図書を有効かつ適切に使用し、指導を工夫することで、子どもが無理なく理解できるようにしている。

Q /子ども達への一般図書の配布は、学年が決められて配本されているのか。

A /一般図書は、学年が決められて配本されているのではなく、子どもの障がいの程度や発達段階に応じて配本されている。同じ学年で配本される図書が異なる場合もある。

(質疑応答終了)

◆意見交換・採択協議

会 長 /引き続き、特別支援の採択の審議に入る。

- いずれの図書についても、発達の段階に応じた様々な配慮がされている。子供たちの興味関心を引き付ける工夫や主体的に取り組みやすいわかりやすい内容になっている。いずれの図書も有効に活用されることが期待できると考えられるため、すべての図書を採択すべきと考える。

会 長 /他の意見はないか。(なし)

これまでの審議の経過を踏まえて、特別支援は全種を採択することと決定してよろしいか。(異議なし)

それでは、特別支援については、全会一致ですべての一般図書を採択することと決定する。

◆確認

会 長 /以上で全教科、採択の審議が終了したが、確認のため再度採択結果を読み上げる。

国語は光村図書、
書写は光村図書、
社会の地理的分野は教育出版、
社会の歴史的分野は帝国書院、
社会の公民的分野は教育出版

地図は帝国書院、
数学は教育出版、
理科は教育出版、
音楽の一般は教育出版、
音楽の器楽合奏は教育出版、
美術は日本文教出版、
保健体育は東京書籍、
技術・家庭の技術分野は開隆堂出版、
技術・家庭の家庭分野は開隆堂出版、
外国語の英語は開隆堂出版、
道徳は光村図書、
特別支援については不採択が無いため、全種採択となった。

以上で、令和3年度から使用する第9地区教科用図書の採択を終了する。

事務局／以上で本日の協議会を終了する。

午後3時30分 閉会

議事録署名人

会 長
北見市教育委員会教育長 印

副会長
置戸町教育委員会教育長 印

(令和2年 月 日)